

【 東洋文化学系 】

講義コード	講義科目名	授業形態	単位数	講義期間	曜時限	授業担当者	使用言語	履修・聴講可否		シラバス番号	備考
								科目等履修生	学部生		
1301001	系共通科目(国語学)(講義)	講義	4	通年	金2	大槻 信	日本語	○	○	東洋文化学系1	
1303001	系共通科目(国文学)(講義)	講義	4	通年	金1	金光 桂子	日本語	○	○	東洋文化学系2	
1330001	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	4	通年	月2	河村 瑛子	日本語	○	○	東洋文化学系3	
1330003	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	4	通年	金3	田中 草大	日本語	○	○	東洋文化学系4	
1330004	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	4	通年	木3	岡村 弘樹	日本語	○	○	東洋文化学系5	
1331007	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	岸本 東実	日本語	○	○	東洋文化学系6	
1331008	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	岸本 東実	日本語	○	○	東洋文化学系7	
1331009	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	池田 証寿	日本語	○	○	東洋文化学系8	
1331010	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月5	奥村 和美	日本語	○	○	東洋文化学系9	
1331011	国語学国文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月5	奥村 和美	日本語	○	○	東洋文化学系10	
1340001	国語学国文学(演習)	演習	4	通年	金5	大槻 信	日本語	○	○	東洋文化学系11	
1340002	国語学国文学(演習)	演習	4	通年	火3	金光 桂子	日本語	○	○	東洋文化学系12	
1340003	国語学国文学(演習)	演習	4	通年	月4	河村 瑛子	日本語	○	○	東洋文化学系13	
1340004	国語学国文学(演習)	演習	4	通年	水5	田中 草大	日本語	○	○	東洋文化学系14	
1341003	国語学国文学(演習)	演習	2	前期集中	その他	斎藤 理生	日本語	○	○	東洋文化学系15	
1341004	国語学国文学(演習)	演習	2	後期集中	その他	斎藤 理生	日本語	○	○	東洋文化学系16	
1350001	国語学国文学(講義)	講義	4	通年	木4	鎌田 智恵	日本語	○	○	東洋文化学系17	
1402001	系共通科目(中国語学)(講義)	講義	2	前期	月5	平田 昌司	日本語	○	○	東洋文化学系18	
1404001	系共通科目(中国語学)(講義)	講義	2	後期	月5	平田 昌司	日本語	○	○	東洋文化学系19	
1406001	系共通科目(中国文学)(講義)	講義	2	前期	金5	緑川 英樹	日本語	○	○	東洋文化学系20	
1408001	系共通科目(中国文学)(講義)	講義	2	後期	金5	緑川 英樹	日本語	○	○	東洋文化学系21	
1431001	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火1	永田 知之	日本語	○	○	東洋文化学系22	
1431002	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火1	永田 知之	日本語	○	○	東洋文化学系23	
1431003	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火2	道坂 昭廣	日本語	○	○	東洋文化学系24	
1431004	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火2	道坂 昭廣	日本語	○	○	東洋文化学系25	
1431007	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木1	池田 巧	日本語	○	○	東洋文化学系26	
1431008	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木1	池田 巧	日本語	○	○	東洋文化学系27	
1431011	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金4	平田 昌司	日本語	○	○	東洋文化学系28	
1431012	中国語学中国文学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	松浦 恒雄	日本語	○	○	東洋文化学系29	
1447001	中国語学中国文学(演習)	演習	2	前期	木2	平田 昌司	日本語	○	○	東洋文化学系30	
1447002	中国語学中国文学(演習)	演習	2	後期	木2	平田 昌司	日本語	○	○	東洋文化学系31	
1447003	中国語学中国文学(演習)	演習	2	前期	火4	木津 祐子	日本語	○	○	東洋文化学系32	
1447004	中国語学中国文学(演習)	演習	2	後期	火4	木津 祐子	日本語	○	○	東洋文化学系33	
1449001	中国語学中国文学(演習)	演習	2	前期	水3	緑川 英樹	日本語	○	○	東洋文化学系34	
1449002	中国語学中国文学(演習)	演習	2	後期	水3	緑川 英樹	日本語	○	○	東洋文化学系35	
1451001	中国語学中国文学(講義)	講義	2	前期	水5	木津 祐子	日本語	○	○	東洋文化学系36	
1451002	中国語学中国文学(講義)	講義	2	後期	水5	木津 祐子	日本語	○	○	東洋文化学系37	
1502001	系共通科目(中国哲学史)(講義)	講義	2	前期	水4	宇佐美 文理	日本語	○	○	東洋文化学系38	
1504001	系共通科目(中国哲学史)(講義)	講義	2	後期	水4	宇佐美 文理	日本語	○	○	東洋文化学系39	
1530001	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	4	通年	金4	宇佐美 文理	日本語	○	○	東洋文化学系40	
1530002	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	4	通年	水2	池田 恭哉	日本語	○	○	東洋文化学系41	
1531001	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	橋本 秀美	日本語	○	○	東洋文化学系42	
1531004	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木2	武田 時昌	日本語	○	○	東洋文化学系43	
1531005	中国哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	武田 時昌	日本語	○	○	東洋文化学系44	
1540001	中国哲学史(演習)	演習	4	通年	水5	宇佐美 文理	日本語	○	○	東洋文化学系45	
1540002	中国哲学史(演習)	演習	4	通年	月2	池田 恭哉	日本語	○	○	東洋文化学系46	
1541003	中国哲学史(演習)	演習	2	前期	月3	古勝 隆一	日本語	○	○	東洋文化学系47	
1541004	中国哲学史(演習)	演習	2	後期	月3	古勝 隆一	日本語	○	○	東洋文化学系48	
1541005	中国哲学史(演習)	演習	2	前期	金2	中 純夫	日本語	○	○	東洋文化学系49	
1541006	中国哲学史(演習)	演習	2	後期	金2	中 純夫	日本語	○	○	東洋文化学系50	
1550001	中国哲学史(講義)	講義	4	通年	火2	池田 恭哉	日本語	○	○	東洋文化学系51	
1602001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)	講義	2	前期	月3	藤井 正人	日本語	○	○	東洋文化学系52	
1604001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)	講義	2	後期	月3	藤井 正人	日本語	○	○	東洋文化学系53	
1633001	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金2	横地 優子	日本語及 び英語	○	○	東洋文化学系54	
1633002	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	VASUDEVA, Somdev	英語	○	○	東洋文化学系55	
1633003	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月2	Klebanov Andrey	英語	○	○	東洋文化学系56	
1633004	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水5	藤井 正人	日本語	○	○	東洋文化学系57	
1633005	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水5	藤井 正人	日本語	○	○	東洋文化学系58	
1633006	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金5	山下 勤	日本語及 び英語	○	○	東洋文化学系59	
1633009	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木3	井田 克征	日本語	○	○	東洋文化学系60	
1633010	インド古典学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	ACHARYA, Diwakar Nat	英語	○	○	東洋文化学系61	
1643001	インド古典学(演習)	演習	4	通年	火5	Klebanov Andrey	英語	○	○	東洋文化学系62	
1644001	インド古典学(演習)	演習	2	後期	月2	Klebanov Andrey	英語	○	○	東洋文化学系63	
1644002	インド古典学(演習)	演習	2	後期	月3	志賀 浄邦	日本語	○	○	東洋文化学系64	
1644003	インド古典学(演習)	演習	2	前期	金2	横地 優子	日本語及 び英語	○	○	東洋文化学系65	
1644004	インド古典学(演習)	演習	2	前期	木2	VASUDEVA, Somdev	英語	○	○	東洋文化学系66	
1644005	インド古典学(演習)	演習	2	前期	木4	山口 周子	日本語	○	○	東洋文化学系67	
1644006	インド古典学(演習)	演習	2	後期	木4	芳原 綾子	日本語	○	○	東洋文化学系68	
1653001	インド古典学(講義)	講義	2	前期	月4	横地 優子	日本語	○	○	東洋文化学系69	
1653002	インド古典学(講義)	講義	2	後期	月4	藤井 正人	日本語	○	○	東洋文化学系70	
1653003	インド古典学(講義)	講義	2	前期	水2	Klebanov Andrey	英語	○	○	東洋文化学系71	
1653004	インド古典学(講義)	講義	2	後期	水2	Klebanov Andrey	英語	○	○	東洋文化学系72	
1702001	系共通科目(インド哲学史)(講義)	講義	2	前期	水4	VASUDEVA, Somdev	日本語及 び英語	○	○	東洋文化学系73	
1704001	系共通科目(仏教学)(講義)	講義	2	後期	水4	VASUDEVA, Somdev	日本語及 び英語	○	○	東洋文化学系74	
1802001	系共通科目(仏教学)(講義)	講義	2	前期	月2	宮崎 泉	日本語	○	○	東洋文化学系75	
1804001	系共通科目(仏教学)(講義)	講義	2	後期	月2	宮崎 泉	日本語	○	○	東洋文化学系76	
1831001	仏教学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水3	宮崎 泉	日本語	○	○	東洋文化学系77	
1831002	仏教学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水3	宮崎 泉	日本語	○	○	東洋文化学系78	
1831003	仏教学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火4	船山 徹	日本語	○	○	東洋文化学系79	
1831004	仏教学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火4	船山 徹	日本語	○	○	東洋文化学系80	
1831005	仏教学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木5	室寺 義仁	日本語	○	○	東洋文化学系81	
1831006	仏教学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木5	室寺 義仁	日本語	○	○	東洋文化学系82	
1831007	仏教学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金2	DEROCHE, Marc-Henri Jean	英語	○	○	東洋文化学系83	
1841001	仏教学(演習)	演習	2	前期	火3	宮崎 泉	日本語	○	○	東洋文化学系84	
1841002	仏教学(演習)	演習	2	後期	火3	宮崎 泉	日本語	○	○	東洋文化学系85	
1841003	仏教学(演習)	演習	2	後期	金4	加納 和雄	日本語	○	○	東洋文化学系86	
1841004	仏教学(演習)	演習	2	前期	水4	熊谷 誠慈	日本語	○	○	東洋文化学系87	
1841005	仏教学(演習)	演習	2	後期	水4	熊谷 誠慈	日本語	○	○	東洋文化学系88	
1841006	仏教学(演習)	演習	2	前期	金2	佐藤 直実	日本語	○	○	東洋文化学系89	
1841007	仏教学(演習)	演習	2	後期	月4	志賀 浄邦	日本語	○	○	東洋文化学系90	
1841008	仏教学(演習)	演習	2	前期	木4	山口 周子	日本語	○	○	東洋文化学系91	
1841009	仏教学(演習)	演習	2	後期	木4	芳原 綾子	日本語	○	○	東洋文化学系92	
1851001	仏教学(講義I)	講義	2	前期	水2	Klebanov Andrey	英語	○	○	東洋文化学系93	
1851002	仏教学(講義I)	講義	2	後期	水2	Klebanov Andrey	英語	○	○	東洋文化学系94	
1853001	仏教学(講義II)	講義	2	前期	火2	DEROCHE, Marc-Henri Jean	日本語及 び英語	○	○	東洋文化学系95	
1853002	仏教学(講義II)	講義	2	後期	火2	DEROCHE, Marc-Henri Jean	日本語及 び英語	○	○	東洋文化学系96	

東洋文化学系 1

科目ナンバリング		U-LET10 21301 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国語学)(講義) Japanese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		大槻 信 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		国語学講義									
【授業の概要・目的】											
日本語を日本語たらしめているのは何であろうか。本講義では、日本語の様々な側面に注目しながら、日本語の歴史をたどる。今年度は、日本語の文字ならびに文体を中心に概説しながら、関連する諸問題について考察を加える。日本語の特性とその歴史を知ることが目的とする。											
【到達目標】											
日本語の文字・文体の歴史的展開を知り、それを通して日本語の特性について理解する。											
【授業計画と内容】											
講義を主体とするが、可能な範囲で発表や資料講読などを交える。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎する。知識よりも思考を重視する。 主たる講義内容は以下の通り。前期は文字・表記を中心に、後期は文体を中心に論じる予定である。 基本的に以下の計画によって講義を進めるが、内容の順序や回数を変えることがある。											
【前期】											
第1回イントロダクション											
第2回文字についての導入 前半											
第3回文字についての導入 後半											
第4回日本語の文字 前半											
第5回資料講読											
第6回日本語の文字 後半											
第7回資料講読											
第8回日本語の文字の歴史 前半											
第9回資料講読											
第10回日本語の文字の歴史 後半											
第11回資料講読											
第12回発表											
第13回発表											
第14回まとめ											
第15回前期末レポート											
【後期】											
第1回イントロダクション											
第2回文体についての導入 前半											
第3回文体についての導入 後半											
第4回日本語の文体 前半											
----- 系共通科目(国語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国語学)(講義)(2)

第5回資料講読
第6回日本語の文体 後半
第7回資料講読
第8回日本語の文体の歴史 前半
第9回資料講読
第10回日本語の文体の歴史 後半
第11回資料講読
第12回発表
第13回発表
第14回まとめ
第15回後期末レポート

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

成績はレポートを中心に評価し、発表、課題への回答などを平常点として加味する。
概ね毎回「プリント」課題を配布し回収する。
前期末に小レポート。後期末にレポートを課す。
「レポート：平常点」は「60：40」を基本とする。

【教科書】

木田章義編『国語史を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:978-4-7907-1596-2
ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

『国語史を学ぶ人のために』の指定部分を予習すること。
また、授業中にあげる資料や参考文献を読むことが良い復習となる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 2

科目ナンバリング		U-LET10 21303 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国文学)(講義) Japanese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		金光 桂子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
日本の古典文学の中からさまざまな「物語」を類型ごとに取り上げ、時代やジャンルによる変容を確認しつつ、それぞれの物語のテーマを考える。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな時代とジャンルの文学作品を読むことにより、古典文学史の流れを実際の作品に即して理解する。 ・国文学研究の基礎的な方法について学ぶ。 											
【授業計画と内容】											
<p>1.イントロダクション</p> <p>2.小公子譚(1) 『一寸法師』</p> <p>3.小公子譚(2) 『小男の草子』</p> <p>4.求婚譚(1) 『万葉集』</p> <p>5.求婚譚(2) 『大和物語』</p> <p>6.天人女房譚(1) 氏祖伝承</p> <p>7.天人女房譚(2) 『竹取物語』</p> <p>8.女の物語(1) 『源氏物語』</p> <p>9.女の物語(2) 『とりかへばや物語』</p> <p>10.しのびね型(1) 『しのびね』</p> <p>11.しのびね型(2) 『しぐれ』</p> <p>12.出家遁世譚(1) 『西行物語』</p> <p>13.出家遁世譚(2) 『釈迦の本地』</p> <p>14.継子物語(1) 『住吉物語』</p> <p>15.継子物語(2) 『しんとく丸』</p> <p>16.異類婚姻譚(1) 『玉水物語』</p> <p>17.異類婚姻譚(2) 『芦屋道満大内鑑』</p> <p>18.異類合戦譚 『鴉鷲物語』</p> <p>19.判官物(1) 『義経記』</p> <p>20.判官物(2) 舞の本</p> <p>21.小野小町伝説(1) 『玉造小町子壮衰書』</p> <p>22.小野小町伝説(2) 謡曲</p> <p>23.芸能談(1) 音楽説話</p> <p>24.芸能談(2) 歌徳説話</p> <p>25.中国説話の翻案(1) 『唐物語』</p> <p>26.中国説話の翻案(2) 『伽婢子』</p> <p>27.総括</p> <p>28.レポート作成に向けて(1) 課題設定</p>											
----- 系共通科目(国文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国文学)(講義)(2)

29.レポート作成に向けて(2) 調査方法
30.フィードバック 28.レポート作成に向けて(1) 課題設定
29.レポート作成に向けて(2) 調査方法
30.フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(授業中に課す課題・コメントなど。20点)および期末レポート(80点)による。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業で取り上げた作品や関連資料のうち、少しでも興味をもったものは自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芭蕉研究									
【授業の概要・目的】											
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前期には、芭蕉の基本事項について概説した上で、芭蕉の発句・俳文作品を幾つか取り上げて精読し、その読解方法を講義する。和漢雅俗にわたる表現史や、関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後期には、芭蕉の作品と分かちがたく結びつく重要資料であり、俳文作品としても親しまれた芭蕉の書簡を取り上げる。はじめに、往来物（江戸時代に教科書として用いられた手紙の文例集）を用い、書簡資料を扱う上での入門的な講義を行う。その上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>											
【到達目標】											
近世前期から中期にかけての俳諧史を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.イントロダクション 2.伝記 3.研究史と資料状況 4.発句精読(1) 素材に着目して 5.発句精読(2) 語法と表現史 6.発句精読(3) 自筆資料の活用 7.発句精読(4) 周辺資料の活用 8.俳文精読(1) 『笈の小文』 9.俳文精読(2) 「幻住庵記」 10.俳文精読(3) 『奥の細道』概説 11.俳文精読(4) 『奥の細道』と曾良随行日記 12.俳文精読(5) 『奥の細道』と自筆資料群 13.芭蕉と同時代の俳人たち 14.芭蕉の俳諧活動の特性 15.前期のまとめ 											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

- 16.書簡読解入門(1) 書簡資料概説
- 17.書簡読解入門(2) 往来物の読解
- 18.書簡読解入門(3) 往来物の読解
- 19.芭蕉書簡の享受の諸相
- 20.新鋭俳人としての芭蕉(木因宛書簡・濁子宛書簡)
- 21.指導者としての芭蕉(麿垢宛書簡)
- 22.愛弟子杜国をめぐって(万菊丸宛書簡)
- 23.『奥の細道』前夜(烏金右衛門宛書簡)
- 24.「風雅のまこと」の追求(曲水宛書簡)
- 25.元禄俳壇と芭蕉の門人(去来宛書簡)
- 26.芭蕉の臨終(遺状)
- 27.文学としての書簡(1) 小説と手紙
- 28.文学としての書簡(2) 俳人と手紙
- 29.総括
- 30.フィードバック

授業の進行度や受講者の理解の度合いによって、内容や順序を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(30%)、小テスト(20%)、年度末のレポート(50%)による。平常点は、授業への参加度やコメントカード等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
鈴木勝忠『俳諧史要』(明治書院)
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学習(予習・復習)等】

版本・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、芭蕉以外の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

国語学国文学(特殊講義)(3)へ続く

国語学国文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 文学研究科		田中 草大 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時間	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語表記の史的変遷									
【授業の概要・目的】											
<p>上代(奈良時代以前)から近現代に至る、日本語の表記法の発展・変遷について概観します。いま圧倒的主流となっている(そしてこのシラバスでも採用している)「漢字平仮名交り」という表記方法は、日本語の歴史を通じてずっと主流であったわけでは決してありません。一時代に複数の表記様式が並存し、文章の目的や対象など種々の要因に応じて、その内の一つが選択されるという在り方が長く続きました。</p> <p>また興味深いことに、「どのような表記様式を用いるか(=表記体)」と「どのような文章を書くか(=文体)」とに関連性のあったことが知られています。よって、日本語の歴史を探求しようとする場合には、表記にも着目する必要があるのです。</p> <p>表記は「どのような文字・符号を用いるか」と「それらの文字・符号をどのように用いるか」という2つの観点から捉えることができますが、本講義ではこの両観点から、日本語がどのように表記されてきたかを通観します。また、幾つかのトピックについては、先行研究等をもとにより専門的な問題や知見を紹介します。</p>											
【到達目標】											
<p>日本語の表記法の歴史を下記の2方向から理解し、説明できる。</p> <p>(1) どのような文字・符号を用いるか。</p> <p>(2) それらの文字・符号をどのように用いるか。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要、日本語表記のバリエーション総説、表記体と文体の関係</p> <p>第2～5回：漢字と漢文の輸入と展開(漢文訓読、日本語文としての漢文と変体漢文)</p> <p>第6～7回：真仮名文の成立とそこにおける漢字の用法</p> <p>第8～9回：仮名及び仮名文の成立と発展</p> <p>第10～11回：種々の漢字仮名交り文の成立と発展</p> <p>第12～13回：字体と書体</p> <p>第14～15回：いろは歌と五十音図</p> <p>第16～17回：仮名遣い</p> <p>第18～19回：近代の漢字表記・仮名表記・ローマ字表記・点字</p> <p>第20～21回：補助符号・振り仮名・書字方向</p> <p>第22～24回：通史(～中世前期)</p> <p>第25～27回：通史(中世後期・近世)</p> <p>第28～29回：通史(近代・現代)</p> <p>第30回：まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポート及び期末試験による（各50％）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

授業中に指示する参考文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 5

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 岡村 弘樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古典日本語動詞の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>文において、述語は中核的な役割を担い、その述語の中心的な存在となる品詞が動詞である。そのため、動詞は文法研究の中でもしばしば取り上げられる対象であるものの、検討すべき課題は多く残されている。本講義では古典日本語の動詞を対象とし、主にその形態と意味に着目して、各時代の様相や歴史的変遷を確認しつつ研究上問題となる点について考察してゆく。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・文法研究に限らず、古典語を対象とする国語学の研究における基礎的な知識を身に付ける。 ・どういった点が問題となるのかを知り、さまざまな先行研究に触れることで、自ら研究課題を発見し、考察する力を養う。 											
【授業計画と内容】											
【前期】											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 動詞の「活用形」											
第3回 連用形、終止形											
第4回 未然形、その他の活用形											
第5回 動詞の「活用の型」											
第6回 上代語の動詞概観											
第7回 活用の成立に関する諸説											
第8回 上二段活用の特殊性											
第9回 上代から中古にかけて見られる「二段活用の一段化」											
第10回 中古語の動詞概観											
第11回 接尾辞について											
第12回 複合動詞について											
第13回 「終止形と連体形の合一化」											
第14回 中世から近世にかけて見られる「二段活用の一段化」											
第15回 前期の総括											
【後期】											
第16回 動詞の形態と意味（前期の復習を兼ねて）											
第17回 「自動詞」と「他動詞」											
第18回 「受身」と「使役」											
第19回 『詞通路』までの「自他」の認識											
第20回 『詞通路』と「自他」											
第21回 『詞通路』以降～近代の「自他」の研究											
第22回 上代語動詞に見られる自他の対応											
第23回 動詞の活用と自他											
第24回 自動詞・他動詞以外の動詞の分類											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

- 第25回 アスペクトによる動詞分類
第26回 助動詞ツ・ヌの使い分けと動詞(1) 近世から近代の研究
第27回 助動詞ツ・ヌの使い分けと動詞(2) 戦後の研究
第28回 存在詞について
第29回 後期の総括
第30回 フィードバック

ただし、授業の進度や受講者の理解の度合い等によって、内容や順序は変更することがある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(授業内に課すコメントシート等の提出物、20%)と後期末のレポート(80%)により評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

本講義は古典語に関するものであるが、普段自身が使用する、あるいは周りで使用されている動詞を中心とする言葉に注意することによって、講義内容の理解を深めるのに有用な気付きが得られることがあるだろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院 文学研究科 准教授 文学研究科		岸本 恵実 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『日葡辞書』の研究									
[授業の概要・目的]											
この授業では『日葡辞書』の収載語彙について、『羅葡日辞書』などのキリシタン資料や日本の各種資料と比較することにより、立項や語釈の方針を明らかにすることを目指す。このことを通じ、17世紀頃の辞書類の扱い方、先行研究の検討、研究課題の設定と進め方について学ぶ。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリシタン資料の特色を学ぶことができる。 ・キリシタン資料を、16・17世紀の日本語資料としてだけでなく、他の時代・地域も視野に入れた視点から考察できるようになる。 ・資料ごとの特性に留意して調査・考察できるようになる。 											
[授業計画と内容]											
1 キリシタン版概説 2 日葡辞書について(1) 成立 3 日葡辞書について(2) 序文 4 日葡辞書について(3) 構成 5 日葡辞書について(4) 収載語彙 6 日葡辞書について(5) 語釈 7 日葡辞書の語彙の考察(1) 「犬」と関連語 8 日葡辞書の語彙の考察(2) 「猫」と関連語 9 日葡辞書の語彙の考察(3) 「牛」と関連語 10 日葡辞書の語彙の考察(4) 「馬」と関連語 11 日葡辞書の語彙の考察(5) 「鼠」と関連語 12 日葡辞書の語彙の考察(6) 「兔」と関連語 13 日葡辞書の語彙の考察(7) 「猿」と関連語 14 全体討論会 15 フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(授業内での発言、コメントシート)10%・課題40%・期末レポート50% 課題は『日葡辞書』の語彙に関する授業中の調査報告、期末レポートは課題の内容をより深めた考察のまとめである。 レポートは以下の観点から総合的に評価する。 A「問題設定(テーマが適切に設定され、一貫しているか)」 B「調べ方(設定した問題を考察するための調査を行っているか、資料を適切に扱っているか)」											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

- C「構成（論旨が筋道を立ててまとめられているか）」
D「書き方（所定の様式にしたがっているか、適切な日本語を用いているか）」

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

大塚光信解説『エヴォラ本日葡辞書』（清文堂出版）
土井忠生・森田武・長南実編訳『邦訳日葡辞書』（岩波書店）
森田武『日葡辞書提要』（清文堂出版）
小林祥次郎『日本古典博物事典動物篇』（勉誠出版）
その他、適宜授業中に指示する。

[授業外学習（予習・復習）等]

第1回目に全体について説明し、その他適宜、授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

さまざまな情報については、適宜授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 7

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学大学院 文学研究科 准教授 文学研究科		岸本 恵実 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		キリシタン辞書類の研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では『日葡辞書』の収載語彙について、『羅葡日辞書』などのキリシタン資料や日本の各種資料と比較することにより、立項や語釈の方針を明らかにすることを目指す。このことを通じ、17世紀頃の辞書類の扱い方、先行研究の検討、研究課題の設定と進め方について学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリシタン辞書およびその関連辞書の特質を学ぶことができる。 ・キリシタン資料を、16・17世紀の日本語資料としてだけでなく、他の時代・地域も視野に入れた視点から考察できるようになる。 ・資料ごとの特性に留意して調査・考察できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
1 キリシタン版概説 2 日葡辞書について(1) 引用文献 3 日葡辞書について(2) 他のキリシタン辞書との関わり 4 日葡辞書について(3) ポルトガル語辞書史からの見方 5 日葡辞書の語彙の考察(1) 「鹿」と関連語 6 日葡辞書の語彙の考察(2) 「狐」と関連語 7 日葡辞書の語彙の考察(3) 「狸」と関連語 8 日葡辞書の語彙の考察(4) 「熊」と関連語 9 日葡辞書の語彙の考察(5) 「猪」と関連語 10 日葡辞書の語彙の考察(6) 「狼」と関連語 11 日葡辞書の語彙の考察(7) 「獅子」と関連語 12 日葡辞書の語彙の考察(8) 「虎」と関連語 13 日葡辞書の語彙の考察(9) 「象」と関連語 14 全体討論会 15 フィードバック											
【履修要件】											
前期の「国語学国文学(特殊講義)」を履修済み、または、『日葡辞書』を使った経験のあることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(授業内での発言、コメントシート)10%・課題40%・期末レポート50% 課題は『日葡辞書』の語彙に関する授業中の調査報告、期末レポートは課題の内容をより深めた考察のまとめである。 レポートは以下の観点から総合的に評価する。 A「問題設定(テーマが適切に設定され、一貫しているか)」											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

- B 「調べ方（設定した問題を考察するための調査を行っているか、資料を適切に扱っているか）」
C 「構成（論旨が筋道を立ててまとめられているか）」
D 「書き方（所定の様式にしたがっているか、適切な日本語を用いているか）」

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

大塚光信解題 『エヴォラ本日葡辞書』（清文堂出版）
土井忠生・森田武・長南実編訳 『邦訳日葡辞書』（岩波書店）
森田武 『日葡辞書提要』（清文堂出版）
小林祥次郎 『日本古典博物事典動物篇』（勉誠出版）
その他、授業中に指示する。

[授業外学習（予習・復習）等]

第1回目に概略を説明し、その他適宜、授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

さまざまな情報については、適宜授業中に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 池田 証寿 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時間	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本古代中世辞書史研究									
【授業の概要・目的】											
日本の古代（奈良平安時代）から中世（鎌倉室町時代）までに成立した各種の古辞書を取り上げて、その編者、成立、組織、価値、後世への影響などを解説する。取り上げる古辞書は漢文古辞書を中心とし、日本におけるこれまでの研究成果と新たな研究課題の紹介を目的とする。											
【到達目標】											
日本における古代中世の漢文古辞書の研究は、国語学および中国語学の双方からなされており、観点と方法に相違があることを理解する。すなわち、国語学では、漢字音の日本語化（漢音・呉音の形成）、訓詁の日本語化（和訓あるいは訓読みの形成）、和製漢字（国字の成立）に関心が高い。一方、中国語学では、字音・訓詁の双方において、日本語化した要素を極力排除して、中国側小学書の本文を可能な限り復元することを目指している。国語学と中国語学とに共通して議論できるのは漢字の字体の研究である。											
【授業計画と内容】											
第一回 日本古辞書の三大出典 『玉篇』『切韻』『一切経音義』											
第二回 仏典音義の編纂 『新訳華嚴経音義私記』を中心に											
第三回 玉篇の抄録 『篆隸万象名義』											
第四回 漢語抄類の編纂 『楊氏漢語抄』と『臨時雜要字』											
第五回 韻書と字書の統合 『東宮切韻』											
第六回 仏典音義と和訓の収集 『新撰字鏡』											
第七回 本文典拠主義の辞書の成立 『倭名類聚抄』											
第八回 漢文訓読語に見る訓詁と表現 訓点の起源と展開											
第九回 仏典の読誦と音義書の編纂 法華経の音義と大般若経の音義											
第十回 本文典拠主義の辞書の変容 原撰本『類聚名義抄』											
第十一回 実用主義の漢和辞書の完成 改編本『類聚名義抄』											
第十二回 韻書の変容と国語辞書の編纂 『詩苑韻集』と『色葉字類抄』											
第十三回 漢和辞書と国語辞書の展開											
第十四回 漢字字体史研究と古辞書研究 初唐の標準字体と開成石経の標準字体											
第十五回 漢字字体史研究と古辞書研究 中国の字様書と日本古辞書での利用											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(30点)と、レポート試験(70点)により評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。

[教科書]

必要な資料は教室で配布する。

[参考書等]

(参考書)

貞苅伊徳『新撰字鏡の研究』(汲古書院)ISBN:4762934232

吉田金彦『古辞書と国語』(臨川書店)ISBN:4653040591

築島裕『築島裕著作集第三巻 古辞書と音義』(汲古書院)ISBN:4762936235

石塚晴通『漢字字体史研究』(勉誠出版)ISBN:4585280081

[授業外学習(予習・復習)等]

古辞書研究上、重要な論文を紹介し、その位置づけを行うので、あらかじめ目を通しておくこと。貞苅伊徳「新撰字鏡の解剖」、吉田金彦「古辞書への開眼」(原題「国語学における古辞書研究の立場」)、築島裕「中古辞書史小考」、石塚晴通「漢字字体の日本的標準」は上記した「参考書等」に収録されている。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 奥村 和美 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		萬葉集の比較文学的研究									
【授業の概要・目的】											
<p>・ 上代の日本人が学びとった中国文学の知識とはどのようなものであり、それが萬葉集などの文学作品にどのような影響を及ぼしたのか。この問題について、特に基本的教養をなしたであろう初学書や経書の受容という側面から、当時の使用テキストにできるかぎり基づいて実証的に考察・検討を加える。</p> <p>・ 萬葉集を主な対象とするが、適宜、萬葉集以外の上代文献にも触れる。</p>											
【到達目標】											
<p>・ 上代の知識人の基本的教養が中国文学をもとにどのように形成されたかを理解し、その視点から萬葉集をはじめとする上代の文学作品を吟味し、考察することができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座と問題意識 上代日本文学の比較文学的研究について【1週】 2. 初学書の受容 千字文・論語【5～6週】 3. 経書の受容 古文孝経を中心に【7～8週】 4. 総括【1週】 5. 理解度の確認テスト【最終週】 フィードバック方法は授業中に説明します。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>毎回の授業後のまとめシートの提出(30点)と最終回に行う理解度の確認テスト(70点)との総合により評価する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義) (2)

[教科書]

井手・毛利 『『新校注 萬葉集』』(和泉書院)
塙書房『補訂版 萬葉集』を使用することも可。

[参考書等]

(参考書)
佐竹昭広他 『岩波文庫 萬葉集』(岩波書店)

[授業外学習(予習・復習)等]

予習・復習 授業で扱った作品を含め、前期期間内に萬葉集二十巻をひとつおりに読むこと。はじめて萬葉集に触れる学生は、訓読・現代語訳付きなどを利用してよい。専門的な研究を志すものは漢字本文で読むことを心がける。

(その他(オフィスアワー等))

授業時間の前後、教室或いは控え室にて。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 奥村 和美 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		萬葉集の訓詁									
【授業の概要・目的】											
漢字ばかりで記された萬葉集の和歌を日本語で訓めるようにすること、いわゆる訓読は萬葉集研究の基礎である。そのためにはまず漢字の訓詁が正確になさねばならない。本講義では、萬葉集の正確な訓読を行うために、中国或いは日本の古字書(辞書)を用いた訓詁とはどのようなものか具体例に則して実践的に示していく。											
【到達目標】											
萬葉集読解の基礎である訓詁がどのように行われてきたかを理解し、その視点から訓詁のあるべき方法を理解し、習得できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座と問題意識 萬葉集の訓詁と古字書【 1 ~ 2 週】 2. 原本系玉篇零巻を用いた訓詁【 4 ~ 5 週】 3. 篆隸萬象名義を用いた訓詁【 4 ~ 5 週】 4. 玉篇逸文を用いた訓詁【 4 ~ 5 週】 5. 総括【 1 週】 フィードバック方法は授業中に説明します。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
毎回の授業後のまとめシートの提出(30点)とレポート(70点)との総合により評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
井手・毛利 『新校注 萬葉集』(和泉書院) 塙書房 『補訂版 萬葉集』の使用も可。											
【参考書等】											
(参考書) 佐竹昭広他 『岩波文庫 萬葉集』(岩波書店)											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

予習・復習 授業で扱った作品を含め、後期期間内に萬葉集二十巻をひとつおりに読むこと。はじめて萬葉集に触れる学生は、訓読・現代語訳付きなどを利用してよい。専門的な研究を志すものは漢字本文で読むことを心がける。

（その他（オフィスアワー等））

授業の前後、教室或いは控え室にて

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		大槻 信 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		漢籍訓点資料の研究									
【授業の概要・目的】											
漢籍訓点資料をとりあげ、演習形式で研究を行う。 訓点資料についての基礎知識を獲得し、訓点資料を日本語史・日本文学の研究資料として使用する ための方法・視点を学ぶことを目的とする。 授業では、調べ、考える楽しさを重視する。											
【到達目標】											
訓点資料についての基礎知識を獲得し、様々な工具書を用いて訓点資料を読解し、そこに現れた日 本語について考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
日本では、漢文を読解するための補助手段として、漢文本文に返点・仮名・ヲコト点などを記入す ることがあった。返点により語順を示し、仮名によって訓や音を表す。ヲコト点は字画の様々な位 置に点や線を施すことで、助詞・助動詞のような助辞や活用語尾などを表示した。これらの注記・ 符号を「訓点」、訓点が施された文献を「訓点資料」と呼ぶ。 本演習では、唐代の伝奇小説『遊仙窟』の訓点本(陽明文庫本)をとりあげ、その研究を行う。具 体的には、資料をもとに訓み下し文を作成し、その過程で、書誌・表記・音韻・文法・語彙といっ た種々の方面から検討を加える。日本語史、訓読語、古辞書、伝奇小説に興味がある人には面白い ものとなる。 <p>年度はじめ数回をイントロダクションと訓点資料入門にあてる。 その後、受講者による発表形式で進める。発表者は担当部分(半丁分、洋本の1ページに相当)か ら問題点を見つけ出し、発表する。 授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p>											
【前期】											
第1回イントロダクション											
第2回訓点概説											
第3回陽明文庫本遊仙窟について											
第4回 21才 前半											
第5回 21才 後半											
第6回 21ウ 前半											
第7回 21ウ 後半											
第8回 22才 前半											
第9回 22才 後半											
第10回 22ウ 前半											
第11回 22ウ 後半											
第12回 23才 前半											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

第13回 23才 後半
第14回 23ウ 前半
第15回 23ウ 後半

【後期】

第1回 24才 前半
第2回 24才 後半
第3回 24ウ 前半
第4回 24ウ 後半
第5回 25才 前半
第6回 25才 後半
第7回 25ウ 前半
第8回 25ウ 後半
第9回 26才 前半
第10回 26才 後半
第11回 26ウ 前半
第12回 26ウ 後半
第13回 27才 前半
第14回 27才 後半
第15回まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。
発表の機会がなかった者は発表に相当するレポートをもって評価する。

【教科書】

資料のコピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)

張文成作・今村与志雄訳 『遊仙窟』(岩波文庫、岩波書店、1990年)
吉田金彦・築島裕・石塚晴通・月本雅幸編 『訓点語辞典』(東京堂出版、2001年)
その他は授業時に指示する。

【授業外学習(予習・復習)等】

受講者全員がその時間に取り上げる該当部分について予習した上で授業にのぞむこと。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 1 2

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		金光 桂子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		松浦宮物語									
【授業の概要・目的】											
前年度に引き続き、藤原定家の作と伝わる『松浦宮物語』を精読する。和歌・漢詩文・先行物語の表現を駆使して彫琢された文章を読み解き、作者の創意を明らかにする。											
【到達目標】											
古典のテキストを正確に読み、実証的に解釈する方法を習得する。また、典拠や影響を受けた作品を突き止め、その利用方法を分析することで、文章をより深く鑑賞する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 授業の目的や進め方を説明し、受講者の担当部分と発表順を決める。											
第2回 作品概説 『松浦宮物語』について、現在の研究状況を踏まえて概説する。											
第3回～第29回 作品精読 受講者の発表により作品を読み進める。発表者は担当部分について、テキストの翻字、語釈、現代語訳、典拠の指摘などを行う。その中で特に関心のある事柄や重要な問題点について、調査・考察した結果をレジュメにまとめ、発表する。発表者以外の受講者もあらかじめ熟読してから授業に臨み、積極的に質問や意見を述べる事が望まれる。各回の講読範囲はおおむね下記のように予定している（受講者の人数によって調整する）。											
第3回 57丁表											
第4回 57丁裏											
第5回 58丁表											
第6回 58丁裏											
第7回 59丁表											
第8回 59丁裏											
第9回 60丁表											
第10回 60丁裏											
第11回 61丁表											
第12回 61丁裏											
第13回 62丁表											
第14回 62丁裏											
第15回 63丁表											
第16回 63丁裏											
第17回 64丁表											
第18回 64丁裏											
第19回 65丁表											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

第20回 65丁裏
第21回 66丁表
第22回 66丁裏
第23回 67丁表
第24回 67丁裏
第25回 68丁表
第26回 68丁裏
第27回 69丁表
第28回 69丁裏
第29回 70丁表

第30回 フィードバック

[履修要件]

くずし字の文献を扱うため、「国語学国文学講読」を履修済み又は受講中であることが望ましい(必須とはしない)。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(発表および授業中の発言等)による。授業時間内に発表できなかった者は、レポートで代替する。発表・レポートは到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

テキストは京都大学文学部図書館蔵本(プリントを配布する)。

[参考書等]

(参考書)

『新編日本古典文学全集 松浦宮物語・無名草子』(小学館)
萩谷朴 『松浦宮全注釈』(若草書房)

[授業外学習(予習・復習)等]

・今年度の授業では物語の巻二の途中(新編全集p82~)から読み進める。それ以前の部分は参考図書などによって各自あらかじめ読んでおくこと。また、少なくとも自分の担当が回ってくるまでには、物語全体を通読しておくことが望ましい。
・自分の担当以外の箇所についても、十分に下読みしてから授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『俳諧類船集』研究									
[授業の概要・目的]											
<p>過去の文献に記されたことがらを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 古俳諧概説 3. 『俳諧類船集』概説 4. 和装本の扱い方について 5. 受講者による発表と討議 (1) 「抱」条 6. 受講者による発表と討議 (2) 「頂」条 7. 受講者による発表と討議 (3) 「板」条前半 8. 受講者による発表と討議 (4) 「板」条後半 9. 受講者による発表と討議 (5) 「乾」条 10. 受講者による発表と討議 (6) 「痛」条 11. 受講者による発表と討議 (7) 「いぬる」条 12. 受講者による発表と討議 (8) 「入」条前半 13. 受講者による発表と討議 (9) 「入」条後半 14. 受講者による発表と討議 (10) 「出入」条 											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

- 15.受講者による発表と討議 (11) 「祝」条
- 16.受講者による発表と討議 (12) 「諫」条
- 17.受講者による発表と討議 (13) 「弥増」条
- 18.受講者による発表と討議 (14) 「飯」条
- 19.受講者による発表と討議 (15) 「五つ」条
- 20.受講者による発表と討議 (16) 「五日」条
- 21.受講者による発表と討議 (17) 「五十」条
- 22.受講者による発表と討議 (18) 「楼」条
- 23.受講者による発表と討議 (19) 「籠」条
- 24.受講者による発表と討議 (20) 「炉」条
- 25.受講者による発表と討議 (21) 「路地」条
- 26.受講者による発表と討議 (22) 「路次」条
- 27.受講者による発表と討議 (23) 「六道」条
- 28.受講者による発表と討議 (24) 「六親」条
- 29.受講者による発表と討議 (25) 「六斎」条・総括
- 30.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度によって予定を変更する場合がある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業への参加度(20%)、発表(40%)、年度末のレポート(40%)による。発表・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない
プリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)

頼原退蔵 『頼原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社) ISBN:4124012012
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

【授業外学習(予習・復習)等】

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		平安時代語の分析：語義の分類・記述									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、平安時代語の語義の分類・記述を通じて、日本語の史的研究の基本的な方法論を習得することを目的とします。</p> <p>ある語の語義・用法を分類するためには、その語の用例をなるべく多く収集する必要がありますが、用例の収集には複数の手段があり、それぞれに長所と短所があります。また、用例は全て等質に扱って良いわけではなく、位相・文体上のバリエーションについて理解しておく必要があります。各受講生の発表に先立って、これらのことについて講義形式で概説します。</p> <p>なお、評価に際しては、調査・分類が適切に行われているかという点と共に、それらを適切にアウトプットできているか（口頭発表・レポートの形で）という点も重視します。このことの要点についても演習中に説明します。自分の知識や経験を適切にアウトプットする能力は、日本語学研究に限らず社会の幅広い局面において有用と考えられます。</p>											
【到達目標】											
<p>(イ) 日本語学研究における用例の集め方・扱い方を身につける。</p> <p>(ロ) 多数の実例に基づいて語の特徴を適切に記述できる。</p> <p>(ハ) 自分の知識や経験を適切にアウトプットできる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2・3回：講義（平安時代語の語彙・文体）</p> <p>第4回：講義（発表準備の方法について）</p> <p>第5～7回：関連論文の講読</p> <p>第8～29回：受講生による発表</p> <p>第30回：フィードバック（レポート講評等）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点及びレポートによる（各50％）。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習：古語辞典などによって対象語の基礎知識を得る。
復習：発表中に指摘された注意点などを確認し、今後の発表に援用する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 准教授 斎藤 理生 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		1940年代の短篇小説									
【授業の概要・目的】											
太宰治を中心に、1940年代に発表された短篇を精読する。											
【到達目標】											
1940年代の短篇作品について理解を深めることはもちろん、近代小説の読解方法を身につけることが目標である。具体的には、作品の読解を通じて、自分なりの論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになると共に、議論を通じて自らの読みを対象化して捉えられるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクションとして、授業の概要、進め方を説明し、受講生の発表担当作品と発表順を決める。											
第2回 中島敦『山月記』について複数の角度から検討し、討論する。											
第3回 志賀直哉『灰色の月』について複数の角度から検討し、討論する。											
第4回 坂口安吾『復員』について複数の角度から検討し、討論する。											
第5回 太宰治『満願』について議論する。											
第6回 太宰治『畜犬談』について議論する。											
第7回 太宰治『待つ』について議論する。											
第8回 なかじきり：ここまでの議論をまとめ、ふり返る。											
第9回 太宰治『親友交歓』について議論する。											
第10回 太宰治『フォスフォレスセンス』について議論する。											
第11回 太宰治『I can speak』について議論する。											
第12回 太宰治『葉桜と魔笛』について議論する。											
第13回 太宰治『燈籠』について議論する。											
第14回 太宰治『黄金風景』について議論する。											
第15回 まとめ：太宰治を中心とした1940年代の短篇について討論する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業内での発表・発言・課題提出などによる。授業内に発表できなかった受講生は、レポートによって評価する。発表・レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

発表者以外の受講者もあらかじめ作品を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 准教授 斎藤 理生 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		織田作之助の小説を読む									
【授業の概要・目的】											
織田作之助の小説作品を精読する。											
【到達目標】											
織田作之助の作品について理解を深めることはもちろん、近代小説の読解方法を身につけることが目標である。具体的には、作品の読解を通じて、自分なりの論点を見つけ、明確な論拠を示して論を展開できるようになると共に、議論を通じて自らの読みを対象化して捉えられるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクションとして、授業の概要、基本的な作品分析の進め方を説明し、受講生の発表担当作品と発表順を決める。											
第2回 織田作之助の創作活動について講師が概説する。											
第3回 「馬地獄」を講師が精読し、議論する。											
第4回 『それでも私は行く』を講師が精読し、議論する。											
第5回 ここまでの内容について全員で討議する。											
第6回 『俗臭』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第7回 『夫婦善哉』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第8回 『放浪』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第9回 『雪の夜』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第10回 ここまでの内容について全員で討議する。											
第11回 『木の都』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第12回 『螢』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第13回 『猿飛佐助』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第14回 『競馬』を担当者が精読し、内容について討論する。											
第15回 まとめ：織田作之助の創作活動全体について討論する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表、及び授業中の発言などの平常点による。授業内に発表できなかった受講生は、レポートによって評価する。発表・レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

発表者以外の受講者もあらかじめ作品を読み、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 21350 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(講読) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鎌田 智恵 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時間	木4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『千五百番歌合』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>平安時代以降、歌の作者を左右に分け、詠んだ歌を1首ずつ番えて勝敗を決める「歌合(うたあわせ)」が流行した。中でも鎌倉時代初期に成立した『千五百番歌合』は、史上最大規模を誇る。後鳥羽院や藤原俊成、藤原定家をはじめとする当時の代表歌人30人が詠進し『新古今和歌集』の選集資料となったほか、新古今時代の歌風・歌論を知る上でも重要な資料である。</p> <p>本授業では『千五百番歌合』を講読し、用例を集め本文を精緻に読解するという、国語学国文学を研究する上で必要とされる基礎的な知識・調査研究方法を身につける。また変体仮名・くずし字を正確に翻字する力を養う。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典の文章や和歌を、言葉の使い方、他の作品や時代背景との関係などを詳細に調べることを通して解釈する、実証的な研究態度及び研究方法を身につける。 ・ 国文学研究に必要な工具書、データベースなどの使い方について学び、それらを有効に使えるようになる。 ・ 変体仮名・くずし字を正確に翻字する力を身に付ける。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画の目安は以下のようになる。(実際の授業は受講者の理解度等に合わせて進めるため、変更の可能性もある)</p> <p>第1回 導入 ガイダンス 第2回 導入 模擬発表 第3回 導入 模擬発表の振り返り・解説 第4回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻3- 第5回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻3- 第6回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻3- 第7回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻3- 第8回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻3- 第9回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻4- 第10回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻4- 第11回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻4- 第12回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻4- 第13回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻4- 第14回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻4- (試験) くずし字読解試験 前期フィードバック</p> <p>第16回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻11- 第17回 受講者による発表 『千五百番歌合』巻11-</p>											
----- 国語学国文学(講読)(2)へ続く -----											

国語学国文学(講読)(2)

第18回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻11-
第19回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻11-
第20回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻11-
第21回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻11-
第22回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-
第23回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-
第24回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-
第25回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-
第26回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-
第27回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-
第28回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-
第29回	受講者による発表	『千五百番歌合』巻12-

(試験) くずし字読解試験
後期フィードバック

各回の内容は以下ようになる。

【第1～3回】導入

授業の進め方・扱うテキスト・時代背景などを説明し、発表のデモンストレーションを行う。その後、発表について解説した上で、発表を行う順番と担当箇所を決定する。

【第4～30回】発表(演習)

毎回1～2人の受講者が発表し、それに基づき議論するという形で進める。また各学期末にくずし字の読解試験を行う。

発表について、具体的な要領を以下に示す。

・発表者は担当箇所の本文について異同を確認したうえで、用例を挙げて語釈を付ける。さらに問題点を自ら見つけ出し、深く掘り下げて検討する。以上の内容を盛り込んだレジюмеを準備し、発表を行う。

・発表をうけて、受講者全員で議論・検討を行う。

・授業内に発表が回らなかった受講者は、学年末にレポートとして提出する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

各学期末の試験・授業中の発言(50点)、発表・レポート(50点)により評価する。

【教科書】

授業中にプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

『くずし字読解辞典』(東京堂出版)等のくずし字の辞典を準備すること。その他については、授業中に適宜紹介する。

国語学国文学(講読)(3)へ続く

国語学国文学(講読)(3)

[授業外学習(予習・復習)等]

発表者以外の受講者は、当該箇所を各自予習し、疑問点や問題点を洗い出した上で授業に臨むこと。授業中の積極的な発言を期待する。

(その他(オフィスアワー等))

ガイダンスを行うので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
KULASIS掲載の授業資料、授業連絡メールをこまめに確認すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平田 昌司 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説1(文法)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上が、現代中国語の文法について、言語史的な視点をまじえつつ、基礎知識を把握することを目標とする。											
【到達目標】											
この科目は現代中国語(普通話)の文法入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)現代中国語(普通話)の文法構造、(2)中古中国語文法から現代中国語文法への史的発展に関する基礎知識を習得することが期待される。あわせて古典中国語文法の基礎にも留意する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに：中国語とはどのような言語か 2.現代中国語の表記法(簡体字と繁体字、ピンイン、注音符号) 3.普通話と方言(1): 言語地理学的な視点から 4.普通話と方言(2): 言語地理学、言語類型地理論仮説について 5.文法・語彙研究史(現代中国語と古典中国語、借用語) 6.品詞分類、語構成(接頭辞、接尾辞、重ね型) 7.句と文、否定、疑問 8.名詞、代名詞、量詞 9.動詞、形容詞、副詞(1) 10.動詞、形容詞、副詞(2) 11.時制とアスペクト 12.補語と目的語(1) 13.補語と目的語(2) 14.ヴォイス(受身、使役、「把」構文) 15.連動文と前置詞 											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
きちんと授業に出席し、積極的に参加すること(20%)、課題にもとづいて毎週提出を求めるレポート(日本語1200~1600字程度)の完成度(50%)、試験(30%)。											
【教科書】											
毎回の読書・研究課題はKULASISを通じて配布する。											
----- 系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

朱徳熙 『文法講義 朱徳熙教授の中国語文法要説』(白帝社) ISBN:978-4891742676

三宅登之 『中級中国語 読みとく文法』(白帝社) ISBN:978-4560085875

太田辰夫 『中国語歴史文法』(朋友書店)(1958年江南書院初版本の復刊)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献に関しては、あらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説I」および「中国語学概説II」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平田 昌司 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説 2 (漢字史と中国語音韻史)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上が、漢字の歴史と中国語音韻史について、基礎知識を把握することを目標とする。											
【到達目標】											
この科目は漢字史および中国語音韻史の入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)漢字の構造、(2)中国語音韻史に関する基礎知識を習得することが期待される。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、中国語研究史 2. 現代中国語の音韻 (1): 普通話 3. 現代中国語の音韻 (2): 方言における多様性 4. 漢字の歴史 (1): 『説文解字』と文字分類 5. 漢字の歴史 (2): 甲骨文、金文、戦国文字 6. 漢字の歴史 (3): 文字の統一、俗字、規範的書体 7. 音韻史の再構 8. 中古中国語の音韻 (1): 韻書と反切 9. 中古中国語の音韻 (2): 声調と声母 9. 中古中国語の音韻 (3): 韻母 10. 中古中国語の音韻 (4): 韻図 11. 後期中古中国語 12. 近世中国語の音韻 (1): 声調と声母 13. 近世中国語の音韻 (2): 韻母 14. 上古中国語の音韻 (1): 韻母 15. 上古中国語の音韻 (2): 声調と声母 											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
きちんと授業に出席し、積極的に参加すること(20%)、課題にもとづいて毎週提出を求めるレポート(日本語1200~1600字程度)の完成度(50%)、試験(30%)。											
【教科書】											
毎回の読書・研究課題論文はKULASISを通じて配布する。											
-----系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

大西克也・宮本徹 『アジアと漢字文化』 (放送大学教育振興会) ISBN:4595309066

Jerry Norman 『Chinese』 (Cambridge University Press) ISBN:0521296536

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に指示する参考文献に関しては、次回までにあらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説I」および「中国語学概説II」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は、中国古典文学の代表的な作品・作家について、特に唐宋の韻文作品を中心に包括的な知識を身につけることにある。国語科教職科目でもあるため、高校の「漢文」教科書に収録されている作品を多くあつかうが、むしろそれを「外国語文学」もしくは「世界文学」として相対化する視点を導入して考察を深めたい。											
【到達目標】											
韻文を主とした中国の古典文学に関する基本事項を理解したうえで、関連する研究成果を読み込み、課題（レポート）に対して自主的にとりくむ能力を養う。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のとおり講義を進める。ただし講義の進捗度、受講者の理解度に応じて、順序や回数を変更することがある。											
第1回 唐詩の基礎知識（1）韻律のルール											
第2回 唐詩の基礎知識（2）代表的な選集											
第3回 隠逸と園林のトポス											
第4回 「謫仙人」李白の想像力											
第5回 「詩聖」杜甫の革新性											
第6回 辺塞詩と閨怨詩											
第7回 中唐の流行詩人白居易（1）新樂府											
第8回 中唐の流行詩人白居易（2）長恨歌											
第9回 李商隱の恋愛詩											
第10回 新たな韻文様式、詞の勃興											
第11回 欧陽脩と梅堯臣											
第12回 蘇軾の詩											
第13回 蘇軾の詞											
第14回 黄庭堅の詩法と「脱胎換骨」											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業中の小レポート（50％）および期末レポート（50％）の成績による。											
【教科書】											
ハンドアウトを配布する。											
----- 系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

川合康三 『新編中国名詩選(全三冊)』(岩波文庫、2015年) ISBN:978-4-00-370001-3

[授業外学習(予習・復習)等]

各单元ごとに「ブック・ガイド」を告知するので、それによって関連文献を適宜読んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 2 1

科目ナンバリング		U-LET11 21408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論									
【授業の概要・目的】											
中国古典文学の特徴として、「恋愛文学」に乏しいとしばしば指摘され、漢文にも「堅苦しい」とか「教訓話が多い」というイメージが伴いがちです。中国の正統的な文学の世界において、果たしてどのように「恋愛」が表現されてきたのか、あるいは男性同士の「友情」は「恋愛」の欠如を補完するものだったのでしょうか？ 本講義では、「恋と友情」という視点から、主に先秦から唐宋にかけての文学作品を検討してゆきます。国語科教職科目でもあるため、高校の「漢文」教科書に収録される作品にも言及しますが、むしろ既成の漢文イメージを解体することを目的としたい。											
【到達目標】											
中国古典文学のさまざまな文体の作品に触れ、基本事項を理解したうえで、関連する文献を読みこみ、課題（レポート）に対して自主的にとりくむ能力を養う。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のとおり講義を進める。ただし講義の進捗度、受講者の理解度に応じて、順序や回数を変更することがある。											
第1回 中国文学に「恋愛」はない？											
第2回 最古の恋愛歌謡『詩経』											
第3回 女神との恋											
第4回 漢代における愛のかたち											
第5回 愛は生死を超えて											
第6回 閨怨のうた											
第7回 妻へのうた											
第8回 文人と妓女											
第9回 悲劇の女性詩人たち											
第10回 大観園の世界											
第11回 詩人の友情（1）李白と杜甫											
第12回 詩人の友情（2）白居易と元ジン											
第13回 「#20448」と友情											
第14回 恋愛と友情											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業中の小レポート（50％）および期末レポート（50％）の成績による。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

（参考書）

川合康三『中国の恋のうた 『詩経』から李商隠まで』（岩波書店、2011年）ISBN:9784000281829

[授業外学習（予習・復習）等]

各單元ごとに「ブック・ガイド」を告知するので、それによって関連文献を適宜読んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍目録法									
【授業の概要・目的】											
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。											
【授業計画と内容】											
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係） 第3回 カード作成の目的（書誌の基本） 第4回 書名（表題の確定） 第5回 書名（合刻と合綴） 第6回 書名（漢籍の同定） 第7回 巻数（書誌の特徴） 第8回 撰者（書籍への関与の形態） 第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報） 第10回 鈔刻（複製の手法） 第11回 鈔刻（刊行年と出版者） 第12回 鈔刻（底本の表示） 第13回 鈔刻（特殊な情報） 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。 評価の6割はレポート、4割は平常点による。 レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

清水茂 『中国目録学』 (筑摩書房) ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』 (白帝社) ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録カードのとりかた』 (朋友書店) ISBN:9784892811067

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 2 3

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍分類法									
【授業の概要・目的】											
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。											
【授業計画と内容】											
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 経部・概説 第3回 経部・五経等（経注疏合刻類～春秋類） 第4回 経部・四書等（四書類～小学類） 第5回 史部・概説 第6回 史部・叙述形式（正史類～載記類） 第7回 史部・制度、伝記、地理（詔令奏議類～政書類） 第8回 史部・資料、史論（書目類～史評類） 第9回 子部・概説 第10回 子部・思想、技術（儒家類～術数類） 第11回 子部・趣味、宗教（芸術類～道家類） 第12回 集部・概説 第13回 集部・各論 第14回 叢書部 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。
評価の6割はレポート、4割は平常点による。
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房）ISBN:4480746412

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		道坂 昭廣 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		駢文作品選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、駢文という中国古典世界の美文についてその特色について理解することにある。六朝から唐代の駢文作品を読解する。読解を通して、駢文の成立過程、駢文の特色について理解を進める。											
【到達目標】											
中国語の特色と強く結びついた駢文について、その成立過程を具体的に考察するとともに、その特色について検討を進める。 南朝・齊から初唐時期の散文作品を選読することを通して、どのようにして駢文が完成・成熟に向かってゆくその行程を跡づける。 本講義を通して、中国唐代までの、散文の重要な文体である駢文について、古典世界における美文とは何かという問題について理解を得ることができる。											
【授業計画と内容】											
第1 駢文概説。 第2 鈴木虎雄『駢文史序説』及び駢文に対する研究 第3 駢文成立以前 漢代六朝散文 第4 『文選』散文作品選読（南朝・宋齊作品） 第5 梁朝駢文作品選読 第6 徐陵の作品 第7 「ゆ」信作品選読 第8 陳朝の作品選読 第9 北朝の散文作品選読 1 第10 北朝の散文作品選読 2 第11 初唐の散文作品 1 第12 初唐の散文作品 2 第13 初唐の散文作品（四傑とその周辺） 第14 初唐の散文作品（陳子昂・張説・張九齡） 第15 まとめ・駢文の完成											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『#39432文史序説』 (研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学習(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

中国の散文の歴史について、基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中に紹介する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		道坂 昭廣 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		駢文作品選読									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に引き続き、この講義では、駢文という中国古典世界の美文についてその特色について理解するを目的とする。後期は、古文運動後の晩唐の駢文作品に注目する。古文という文体に対して、駢文が選択されたのはなぜか、駢文が復活した理由について考察を進める。</p>											
【到達目標】											
<p>中国語の特色と強く結びついた駢文について、古文との相違に注目しつつ具体的に考察し、駢文に対する文学意識について検討する。</p> <p>古文という文体を知りつつ、駢文を選択した時期の散文作品を選読することを通して、駢文がなぜ必要とされたのか、文体に対する認識の深化について李商隱などの作品を例に考える。</p> <p>本講義を通して、散文の重要な文体である駢文について、古典世界における美文とは何かという問題について理解を得ることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1 駢文とは何か。古文との比較</p> <p>第2 初唐までの駢文史概説</p> <p>第3 盛唐の散文作品選読1（張説と宮廷文学）</p> <p>第4 盛唐の散文作品選読2（張九齡・王維）</p> <p>第5 中唐の散文作品選読1（詩序）</p> <p>第6 中唐の散文作品選読2（墓誌）</p> <p>第7 晩唐の散文作品選読1（杜牧）</p> <p>第8 晩唐の散文作品選読2（李商隱）</p> <p>第9 晩唐の散文作品選読3（温庭「いん」等）</p> <p>第10 宋代における駢文研究1（古文と駢文）</p> <p>第11 宋代における駢文研究2（駢文理論批評）</p> <p>第12 宋代の散文作品選読1（欧陽脩等、北宋の駢文）</p> <p>第13 宋代の散文作品選読2（陸游等、南宋の駢文）</p> <p>第14 清代の駢文作品選読</p> <p>第15 まとめ・中国古典文学における駢文の位置付け</p>											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業における発言と、報告に基づいて評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『#39432文史序説』 (研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学習(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

中国の散文の歴史について、基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		池田 巧 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中古音講義 [I]									
【授業の概要・目的】											
切韻系韻書に反映された隋代の字音を反映する中国語の中古音について概観し、研究史と音価復元の方法について紹介する。											
【到達目標】											
中国語の中古音研究がどのように行われてきたのか、主要な業績を紹介しながら研究の歴史を辿り、韻書から推定しうる中期中国語の音韻体系を概観する。これまでの研究で何がどのように明らかにされてきたのかについて学ぶとともに、あわせて中国語史の基本的な術語や文献資料についても理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．中国語音韻史の研究とは：授業の方針と計画について 2．切韻と広韻 3．切韻序と基礎音系 4．切韻系韻書の体例 5．四声相配と韻の配列 6．反切とは 7．反切の分析 8．反切系聯法 9．等韻図とは 10．転図の構成 11．中古音の音類 12．転図の等位と声韻の配置 13．音類による中古音の表記 14．中古音を知る工具書 15．まとめと総括 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価：授業への取り組み（50点）と授業内小レポート（50点）											
【教科書】											
使用しない											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

李思敬 『音韻のはなし』 (光生館) ISBN:4-332-87023-9

牛島徳次・香坂順一・藤堂明保 『中国文化叢書 1 言語』 (大修館書店) ISBN:4-469-13001-X

[授業外学習(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		池田 巧 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中古音講義 [II]									
【授業の概要・目的】											
切韻系韻書に反映された隋代の字音を反映する中国語の中古音について概観し、研究史と音価復元の方法について紹介する。											
【到達目標】											
中国語の中古音研究がどのように行われてきたのか、主要な業績を紹介しながら研究の歴史を辿り、韻書から推定しうる中期中国語の音韻体系を概観する。これまでの研究で何がどのように明らかにされてきたのかについて学ぶとともに、あわせて中国語史の基本的な術語や文献資料についても理解を深める。											
【授業計画と内容】											
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．中国語音韻史の研究とは：授業の方針と計画について 2．中古音の音類と工具書 3．音価推定の材料（1）方言資料 4．音価推定の材料（2）外国借字音 5．カールグレンの業績 6．音価推定の実例 7．推定音価 8．重紐の問題 9．等韻図とは 10．転図の構成 11．中古音の音類 12．反切上字と類相関 13．円唇軟口蓋音韻尾 14．声調調値の復元 15．まとめと総括 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点：授業への取り組み（50点）と授業内小レポート（50点）											
【教科書】											
使用しない											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

李思敬 『音韻のはなし』 (光生館) ISBN:4-332-87023-9

牛島徳次・香坂順一・藤堂明保 『中国文化叢書 1 言語』 (大修館書店) ISBN:4-469-13001-X

[授業外学習(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平田 昌司 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		等韻学と17～20世紀中国の古音学									
【授業の概要・目的】											
清代から民国初期の学術や詩学にとって、音韻研究は重要な意義をもっていた。この授業においては、中国の伝統的音韻分析法である等韻学の知識を背景に、いわゆる古音学（古代語音韻の研究）がどのように発達したかを学び、中国文献学の基礎を固める。											
【到達目標】											
中古中国語に関する基礎知識にもとづき、 ・いわゆる等韻学の体系を学び、中国の伝統的な音韻分析法の特質を理解する。 ・等韻学が、17～20世紀にかけて、中国の古代言語研究にどのように寄与したかを理解する。 ・清代の言語研究が、20世紀の国民国家において形成された「国語」にどう影響したかを理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回：全体の方針の説明 第2～3回：等韻図の構造 第4回：清代までの古音研究 第5回：顧炎武の古音研究 第6～7回：江永の等韻学と古音研究 第8～9回：戴震の等韻学と古音研究 第10回：段玉裁と王念孫の古音研究 第11回：孔広森と江有誥の古音研究 第12回：章炳麟の古音研究 第13回：注音字母と国語運動 第14回：Bernhard Karlgrenの古音研究 第15回：まとめ											
【履修要件】											
系共通講義「中国語学概説」程度の中国語学の常識を学んでいること。現代中国語について知識を持っていること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点60%及び最終レポート40%（日本語8000字程度）。平常点には、課題にもとづいて毎回提出をを求めるレポート(日本語1200～1600字程度×13回)の完成度、理解を問う小テストに対する評価を含む。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

平山久雄 『中古漢語の音韻』 (『中国文化叢書 言語』大修館書店に含む。)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業時に与えられた課題にもとづいて、毎週充分時間をかけて作業をおこない、結果をレポートで報告する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

途中で休むと、あとの理解が困難になる可能性がある。毎回の課題達成にきちんと取り組むこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 非常勤講師 松浦 恆雄 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中華文藝の二〇世紀・二一世紀									
【授業の概要・目的】											
本講義の目的は、二〇世紀から二一世紀にかけて中華圏に生成した文藝の全体像を概略把握することにある。文学史的事実を踏まえながら、個々のテキストに反映された多様な要素を吟味することが重要である。											
【到達目標】											
二〇世紀、二一世紀の中華文藝は、生産された時代、地域や生産者の国籍、階層などの相違により、前提となる事実関係に大きな差が生れる。こうした点を正確に踏まえて、テキストをより深く鑑賞することができる能力を養う。											
【授業計画と内容】											
本講義は、以下のような計画により実施される。ただし、授業の進度などにより、適宜、内容の補充・改正・変更を行うことがある。											
第1回：中華文藝の二〇世紀・二一世紀 ガイダンス。											
第2回：（「やまいだれ」の中に「亞」）弦「ハレルヤ！ 僕はまだ生きている」（「深淵」） 戦後台湾でシュルレアリストであること											
第3回：洛夫「孤独な魚の卵の塩漬けが日の出のあとの受精に憧れている」（「漂木」） 外省人・禅詩人の二一世紀											
第4回：穆旦「残された英霊が樹幹に溶け込み殖え続けている」（「森林之魅」） 膨大な戦死者と共に生きる覚悟											
第5回：魯迅「死んだ焔よ、とうとうおまえをつかまえたぞ」（「死火」） 旧文人と中華モダニストの狭間で											
第6回：中華文藝日本語詩の諸相（風車詩社、台湾万葉集など）。											
第7回：廃名「“桃畑の向こう側に行ってみようよ” “向こう側も同じじゃないかしら” 林少年はその言葉がいたく気に入った」（「橋」） 中華モダニストの不安と平安											
第8回：余華「俺の火葬が九時半に予約してあるからすぐに来いっていう通知だ」（「七日間」） この世にもあの世にも居場所のない人のために											
第9回：汪曾祺「寺の小僧の明海は田んぼに残る彼女の足形に目が吸い寄せられ、うつけたようになった」（「受戒」） 中華モダニストの建国・文革後											
第10回：日本語小説と馬華文学。											
第11回：頼声川「だだっ広い上海でめぐり会えたのに、全く……猫の額みたいな台北でこのザマだなんて」（「暗恋桃花源」） 泣き笑い人間喜劇の第一人者											
第12回：喻榮軍「〔飛びすさり、声を荒らげ〕 “やめてよ。嘘でしょ。あり得ないわ。すぐにチャイムが鳴って、その人が現れたら……”」（「www.com」） 孤独な白領階級（ホワイトカラー）の代弁者											
第13回：王安祈「じゃあ舞台と実生活を分けられる人っているんですか。なぜ分けるんですか。分けてしまって、芝居ができるんですか」（「百年戲楼」） 現代演劇としての京劇											
第14回：アイ・ウェイウェイ（艾未未）「アルパカが中央を隠す(草泥馬(「てへん」と「當」)中央)！」 行動しかアートにならないとき											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第15回：詩、小説、演劇、モダンアートの補足・まとめ・映像紹介など。

【履修要件】

中国語ができることが望ましい。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（3割程度）とレポート（7割程度）による。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

ガイダンス時に指示した参考書を参照して、授業で取り上げる作家・作品・文学現象についての基本的な情報を確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 30

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>	中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 平田 昌司 文学研究科 確認用					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	中国現当代文学名著導読(1)										
[授業の概要・目的]											
中国近現代文学の小説・詩歌・随筆・戯曲の各ジャンルにわたって原典を読むことで、現代中国語で書かれた作品を正確に理解するための語学力を高める。											
[到達目標]											
中国語の書きことばをより広く読めるようになるために、100年前から今世紀までの語彙・語法に習熟、それぞれの時期の中国語の特徴について理解した上で、正確な読解を自力でできるようになる。											
[授業計画と内容]											
授業方針および中国近現代文学の背景知識についての概要説明、受講予定者数の確認(1回) 以下、銭理群『中国現当代文学名著導読』から適宜作品を選び、指定した部分を読む。適当な機会に、中国語による要約作成の宿題を課す。(14回)											
[履修要件]											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習にそれなりに時間をかけることを前提として履修すること。また、後期の中国現当代文学名著導読(2)と連続して履修することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への積極的な参加・発表担当(中国語の発音評価を含む)の状況70%、試験30%。											
[教科書]											
銭理群『中国現当代文学名著導読』(北京大学出版社)ISBN:9787301053393(受講者数が確定してから発注する。) 関連資料をプリントで配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 『新華字典』(商務印書館)(最初に必ず持つべき中国の漢字字典。) 呂叔湘編『現代漢語八百詞(増訂本)』(商務印書館)(辞典の文法的説明ではあきたらなくなった人のための重要な参考書。)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
全文を中国語でよどみなく朗読できるようピンインを調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特に、必ず朗読の練習をきちんとし、読解上の疑問点を明らかにしたうえで出席して欲しい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系 3 1

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平田 昌司 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中国現当代文学名著導読(2)									
[授業の概要・目的]											
中国近現代文学の小説・詩歌・随筆・戯曲の各ジャンルにわたって原典を読むことで、現代中国語で書かれた作品を正確に理解するための語学力を高める。											
[到達目標]											
中国語の書きことばをより広く読めるようになるために、100年前から今世紀までの語彙・語法に習熟、それぞれの時期の中国語の特徴について理解した上で、正確な読解を自力でできるようになる。											
[授業計画と内容]											
授業方針および中国近現代文学の背景知識についての概要説明、受講予定者数の確認(1回) 以下、前期に続いて銭理群『中国現当代文学名著導読』から適宜作品を選び、指定した部分を読む。適当な機会に、中国語による要約作成の宿題を課す。(14回)											
[履修要件]											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習にそれなりに時間をかけることを前提として履修すること。また、前期の中国現当代文学名著導読(1)と連続して履修することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への積極的な参加・発表担当(中国語の発音評価を含む)の状況70%、試験30%。											
[教科書]											
銭理群『中国現当代文学名著導読』(北京大学出版社)ISBN:9787301053393(前期に購入したテキストを継続して使用する。) 関連資料をプリントで配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 呂叔湘『現代漢語八百詞(増訂版)』(商務印書館)(辞典の文法的説明ではあきたらなくなった人のための重要な参考書。)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
全文を中国語でよどみなく朗読できるようピンインを調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特に、必ず朗読の練習をし、読解上の疑問点を明らかにしたうえで出席して欲しい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系 3 2

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『古文観止』選読									
【授業の概要・目的】											
『古文観止』は、清代に編まれた中国古典散文の選集である。そもそも教育目的で編纂された選集で、各時代の代表的散文の要点を押さえ、初学者にとって今に到るまで重要な読本として使用されている。王力編『古代漢語』は、1962年に大学における古典教育の基礎的教材として出版され、1981年に修訂版が出版された。その後、主編者を換えつつも、今に到るまで多くの大学で教科書として用いられている。この授業では、『古文観止』から基本的な文章を選び、また『古代漢語』の「古漢語通論(古典常識)」を合わせ読みながら、中国古典文の読み方、さらに中国古典文と現代中国語との相違について理解を深める。											
【到達目標】											
中国古典文を読むために必要な知識、資料の使い方を学び、現代中国語と古典中国語の違いに配慮しつつ、基本的文献の利用方法を学ぶ。古典中国語のみならず、現代中国語の読解能力も高め、漢文訓読や白文に句読を施す訓練も行うなど、文献の特性と読解方法に従って正確に内容を理解できる力を養う。											
【授業計画と内容】											
『古文観止』と王力『古代漢語』「古漢語通論」を読む。読解対象は古典文だが、注釈は現代中国語文で記されている。その双方に目を配り、現代語・古典語ともに理解できるように授業を進める。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 工具書の説明、資料作成方法 2 『左伝』を読む：原文読解 3 『左伝』を読む：現代中国語読解 4 『国語』を読む：原文読解 5 『国語』を読む：現代中国語読解 6 『戦国策』を読む：原文読解 7 『戦国策』を読む：現代中国語読解 8 先秦文についてのディスカッション 9 『史記』本紀を読む：原文読解 10 『史記』本紀を読む：現代中国語読解 11 『史記』列伝を読む：原文読解 12 『史記』列伝を読む：現代中国語読解 13 『漢書』列伝を読む：原文読解 14 『漢書』列伝を読む：現代中国語読解 15 先秦・漢代文のまとめ 											
【履修要件】											
全学共通科目にて、中級中国語を履修していること。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点評価。担当の訳注のみならず，担当時以外の討論や発言も評価の対象とする。

[教科書]

中華書局編集部 『名家精訳 古文觀止』（中華書局）ISBN:9787101009279
王力 『古代漢語』（中華書局）ISBN:9787101000825

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に指示

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		木津 祐子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『古文観止』選読									
【授業の概要・目的】											
前期に引き続き、『古文観止』、王力編『古代漢語』「古漢語通論」を読みながら、中国古典文の基礎、さらに中国古典文と現代中国語との相違について理解を深める。											
【到達目標】											
中国古典文を読むために必要な知識、資料の使い方を学び、現代中国語と古典中国語の違いに配慮しつつ、基本的文献の利用方法を学ぶ。古典中国語と現代中国語の読解とともに、訓読や白文に句読を施す訓練も行い、文献の特性と読解方法に従って正確に内容を理解する力を養う。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、『古文観止』を読む。読解対象は古典文だが、注釈及び『古代漢語』「古漢語通論」は現代中国語文で記されている。その双方に目を配り、現代語・古典語ともに理解できるように授業を進める。											
1 資料説明、工具書の利用方法											
2 唐代の古文を読む1：原文読解											
3 唐代の古文を読む1：現代中国語読解											
4 唐代の古文を読む2：原文読解											
5 唐代の古文を読む2：現代中国語読解											
6 唐代の古文を読む3：原文読解											
7 唐代の古文を読む3：現代中国語読解											
8 宋代の古文を読む1：原文読解											
9 宋代の古文を読む1：現代中国語読解											
10 宋代の古文を読む2：原文読解											
11 宋代の古文を読む2：現代中国語読解											
12 宋代の古文を読む3：原文読解											
13 宋代の古文を読む3：現代中国語読解											
14 唐宋の古文についてディスカッション											
15 まとめ											
この間に、進度に合わせて1-2回のリーディングウィークを設ける。											
【履修要件】											
全学共通科目で中級中国語を履修していること。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点評価。担当の訳注のみならず，担当時以外の討論や発言についても評価の対象とする。

[教科書]

中華書局編集部 『名家精訳 古文觀止』（中華書局）ISBN:9787101009279
王力 『古代漢語』（中華書局）ISBN:9787101000825

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に指示。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『唐宋詩拳要』選読									
【授業の概要・目的】											
桐城派の高歩瀛（1873～1940）が編纂した『唐宋詩拳要』巻四「五言律詩」のなかから、唐詩を精読する。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
『唐宋詩拳要』巻四「五言律詩」の王維「帰モウ川作」（中国書店標点本、下冊424頁）から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『唐宋詩拳要』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 五言律詩の格律											
第3回 王維「帰モウ川作」											
第4回 王維「終南山」											
第5回 王維「過香積寺」											
第6回 王維「送平澹然判官」											
第7回 王維「送劉司直赴安西」											
第8回 王維「送方城韋明府」											
第9回 王維「送梓州李使君」											
第10回 王維「送楊長史赴果州」											
第11回 王維「送ケイ桂州」											
第12回 王維「送丘為落第歸江東」											
第13回 王維「漢江臨汎」											
第14回 王維「觀獵」											
第15回 まとめ											
精読の成果を踏まえ、盛唐詩の特徴についてまとめる。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（授業内での担当、発言）による。

【教科書】

高歩瀛 『全本唐宋詩挙要』（中国書店、2011年）ISBN:978-7-80663-745-6（中文研究室に配架）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および高歩瀛注は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 緑川 英樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『唐宋詩拳要』選読									
【授業の概要・目的】											
桐城派の高歩瀛（1873～1940）が編纂した『唐宋詩拳要』巻五「七言律詩」のなかから、唐詩を精読する。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。 ・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。 ・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>前期に引きつづき、『唐宋詩拳要』巻五「七言律詩」の祖詠「望薊門」（中国書店標点本、下冊544頁）から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらい、それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。</p> <p>第1回 唐詩を読むための工具書 第2回 七言律詩の格律 第3回 祖詠「望薊門」 第4回 劉長卿「過賈誼宅」 第5回 劉長卿「登余干古臬城」 第6回 劉長卿「獻淮寧軍節度使李相公」 第7回 崔曙「九日登望仙台呈劉明府」 第8回 李白「登金陵鳳皇台」 第9回 杜甫「送鄭十八虔貶台州司戶傷其臨老陷賊之故闕為面別情見於詩」 第10回 杜甫「曲江陪鄭八丈南史飲」 第11回 杜甫「曲江二首」其一 第12回 杜甫「曲江二首」其二 第13回 杜甫「九日藍田崔氏莊」 第14回 杜甫「至日遣興奉寄北省舊閣老兩院故人」 第15回 まとめ</p> <p>精読の成果を踏まえ、盛唐詩の特徴についてまとめる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（授業内での担当、発言）による。

[教科書]

高歩瀛 『全本唐宋詩挙要』（中国書店、2011年）ISBN:978-7-80663-745-6（中文研究室に配架）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および高歩瀛注は読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		木津 祐子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		同時代中国文学作品選読									
【授業の概要・目的】											
現代中国の随筆や小説、論説文などを読み、現代中国語で書かれた文学作品を理解し、正確に文法を分析できるだけの語学力及び文章鑑賞能力を身につける。											
【到達目標】											
現代中国語の随筆や小説、さらに論説文などを正確に理解でき、構文を把握するための基礎力を獲得すること。テーマは広い範囲から選択し、内容から現代中国の諸相を理解し、文学的表現の鑑賞能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回：授業方針の概要説明、受講予定者数の確認。以下、作品から指定した部分を読む。あわせて、適宜、中国語の構文分析の宿題を課す。 第2回：朱自清の随筆を読む 第3回：朱自清の随筆の構文上の特徴 第4回：朱次清の随筆について討論 第5回：老舎の小説を読む 第6回：引き続き老舎の小説を読む 第7回：老舎の小説の構文上の特徴 第8回：老舎の小説について討論 第9回：短編の戯曲を読む 第10回：短編の戯曲を引き続き読む 第11回：戯曲の文体上の特徴 第12回：呂叔湘の論説文を読む 第13回：呂叔湘の論説文を引き続き読む 第14－15回：中国語現代文について総括討論											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語初級の基礎力を確実に身につけており、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記したとおり、予習にそれなりに時間をかけることを前提として履修すること。中国語を母語とする学生は対象としない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（担当以外の発言、中国語の発音評価を含む）の状況70%、試験30%。											
【教科書】											
主としてプリントを使用する。											
----- 中国語学中国文学(講読)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

『新華字典』(商務印書館)(中級段階に入ったときは必備の字典。)

[授業外学習(予習・復習)等]

中国語の原典をそのまま用いるので、予習に時間をかけなくてはならない。特に、ピンインを調べて覚えるために一定の時間と労力を割くこと。

(その他(オフィスアワー等))

特に、朗読の練習をきちんとし、読解上の疑問点を明らかにしたうえで出席して欲しい。
中国語学中国文学専修の学生は、後期に開講する講読とあわせて4単位を必ず履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		木津 祐子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		中国学術論文選読									
【授業の概要・目的】											
中国の重要な学術論文を選読する。文学・語学に関する基本的な学術論文の組み立てを学び、論理的な思考に基づいて読解することを通し、基礎的な中国学研究の知識を同時に学ぶことを目指す。											
【到達目標】											
中国現代語の文法構造を理解したうえで、正確な意味解釈ができるようになること。また、古典や現代、さらに語学に関する重要な学術論文を読み、中国学に関する知識を吸収し、自ら読む対象を選ぶことができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
以下の課題についてあつかう。現代中国語による注釈・解説の読解を含む。 第1回：基礎的な論文、主要な工具書の解説。 第2回－5回：古典文学に関する学術論文を読む 第6回：ディスカッション 第7回－9回：現代文学に関する学術論文を読む 第10回：ディスカッション 第11回－13回：語学に関する学術論文を読む 第14回：ディスカッション 第15回：各自が定めたレポート課題について照会し議論する。											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語初級・中級をあわせて、すでに1年半程度学習してきた学部学生を主な対象として授業をすすめる。正確な発音を心がけること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（中国語の発音評価を含む）60%、レポート40%。レポート課題は授業中に発表し議論する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 中国語学中国文学(講読)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で指定した文について、中国語の発音、語彙の古典としての意味・現代語としての意味双方を調べたうえで、自力で読解し、問題点をあきらかにしたうえで出席すること。また、原文を正確な発音で読めるように練習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

中国語学中国文学専修の学生は、前期に開講する講読とあわせて4単位を必ず履修すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 11502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宇佐美 文理 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義 ()									
【授業の概要・目的】											
中国哲学の基本概念を講義し、中国哲学ならびに中国文化への理解を深める。											
【到達目標】											
中国哲学における「気」、「性」、「道」、「理」などの基本的諸概念の持つ意味を理解することにより、中国文化に対する考察のみならず、人類の文化全体を考えるとときの基礎的な知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
1 中国哲学とは何か 2 中国における「学問」の意味について 3 「気」について 一 気思想概観 4 「気」について 二 太極図について 5 「気」について 三 死と生の説明 6 「性」について 一 孟子と荀子の性説 7 「性」について 二 朱子の説明する「性」 8 「道」について 一 儒家の考える道 9 「道」について 二 道家の考える道 10 「理」について 11 「情」について 12 「無」について 13 「形」について 14 ふたたび「中国哲学とは何か」 定期試験 フィードバック（詳細は授業時に解説）											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末試験による（100パーセント）											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
漢文資料などは授業時に適宜コピーして配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 11504 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宇佐美 文理 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義 ()									
【授業の概要・目的】											
中国の目録学について概要を示すことから始めて、中国哲学史上の重要な書物について、経部と子部の書物を中心にそれぞれの内容について解説し、その書物が学問全体においてもつ位置についての知識を深める。											
【到達目標】											
中国の目録学についての基本的な知識を修得し、目録学が持つ意味を理解するとともに、中国の経部書（儒教の経書に関わる書物群）、子部書（諸子百家と、いわゆる技術書とされるもの）といった、中国哲学が主に扱う分野の書物について、それぞれの書物がどういう経緯で作られ、いったい何が書かれているか、さらには、学問全体の中でその書物がどのような位置にあるのかなどを知り、中国学を学ぶ上で基礎的な知識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
1．目録と学問について 2．目録の歴史 一 焚書と『漢書藝文志』 3．目録の歴史 二 六朝期の目録と『隋書經籍志』 4．目録の歴史 三 唐代から『四庫全書総目提要』へ 5．子部書の分類について 6．子部書の概観 一 諸子百家 7．子部書の概観 二 技術書 8．子部書の概観 三 類書 9．易 10．書 11．詩 12．礼 13．春秋 14．四書、小学書 定期試験 フィードバック（詳細は授業時に解説する）											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末試験（100パーセント）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

ひろく中国の古典に親しんでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宇佐美 文理 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国絵画理論研究									
【授業の概要・目的】											
中国絵画の歴史を通覧しつつ、各時代に特徴的な絵画理論を検討しながら、その理論が中国哲学史上に持つ意味を考えていく。											
【到達目標】											
中国絵画史と中国絵画理論に関する通時的な概要を把握できる。また、一般に中国哲学の文献とは見なされない文献が、どのように研究すれば中国哲学史にとって意味を持つものになるのかについて考えるきっかけを与えられる。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 気とはなにか 3. 形とはなにか 4. 絵画の起源 5. 漢代の絵画(1) 6. 漢代の絵画(2) 7. 六朝の絵画(1) 8. 六朝の絵画(2) 9. 六朝の絵画論 10. 隋唐の絵画(1) 11. 隋唐の絵画(2) 12. 唐の絵画論(1) 13. 唐の絵画論(2) 14. 五代北宋の絵画(1) 15. 五代北宋の絵画(2) 16. 五代北宋の絵画論(1) 17. 五代北宋の絵画論(2) 18. 五代北宋の絵画論(3) 19. 南宋の絵画(1) 20. 南宋の絵画(2) 21. 元代の絵画(1) 22. 元代の絵画(2) 23. 南宋から元代の絵画論 24. 明代の絵画(1) 25. 明代の絵画(2) 26. 明代の絵画論 27. 清代の絵画(1) 28. 清代の絵画(2) 29. 清代の絵画論 											
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

30. フィードバック（詳細は授業時に説明します）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによる。

【教科書】

使用しない
資料や図版を適宜コピーして配布します。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

できるだけ中国絵画関連の展覧会などに足を運んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国家訓研究(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>中国には数多くの「某某家訓」と銘打たれた文章があるし、また後世の者に遺した言葉も多く伝わる。だがそれらに共通する特質は何なのかということは、なお明らかにされていない部分が多い。</p> <p>平成30年度の特特殊講義では、唐・欧陽詢撰『芸文類聚』巻23・鑑誠に収められる文章の中から、明確に子や家に伝えようと著されたものを読むことで、それらの文章が鑑誠の名の下にまとめられていることをヒントに、家訓の淵源や特質について探究してきた。今年度はその内容を踏まえつつ、前年度は読み得なかった南北朝時代にまで文章の対象を広げ、家訓が歴代どのような体裁、内容のものとして認識されてきたのかをさらに考察する。</p>											
【到達目標】											
様々な家訓や遺訓の類を読み、その特質を究明しようとする。また家訓の中国社会における位置づけを把握する。											
【授業計画と内容】											
<p>原則として講義形式で進めるが、出席者にも適宜テキストを読解してもらう場面を設ける。また以下[]に括ったのは、『芸文類聚』巻23・鑑誠には収められないものの、家訓として必読と思われる文章である。</p> <p>なお講義のテーマとしては、前年度からの続きとなるが、最初の数回でその復習を兼ねつつ新知見も交えた内容を講義するので、今年度からの参加も問題ない。また読解する文章は、当然ながら前年度と重複しない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家訓に関する研究状況(その大枠・日本編) 2 家訓に関する研究状況(その大枠・海外編) 3 家訓に関する研究状況(個別の家訓・日本編) 4 家訓に関する研究状況(個別の家訓・海外編) 5・6 ケイ康・家誠 7・8 姚信・誠子 9・10 諸葛亮・誠子 11・12 羊 示古 ・誠子書 13・14 陶潜・誠子書 15・16 [陶潜・与子儼等疏] 17・18 顔延之・庭誥 19・20 顔延之・庭誥(その先行研究) 21・22 徐勉・与大息山松書 23・24 徐勉・与大息山松書(その先行研究) 25・26 [王僧虔・誠子書] 27・28 [王僧虔・誠子書](その先行研究) 29・30 [顔之推・顔氏家訓] <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を30%、最終レポートを70%で評価。

[教科書]

授業中に指示する
教員作成のプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36											
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 橋本 秀美 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		漢唐経学資料の読解											
【授業の概要・目的】													
<p>漢代から唐代の経学文献は、宋代以降とは異なる点が多く、現代の我々が直接理解しようとしてもなかなか難しいが、努力すれば理解できることも多い。読書の楽しみは、やはり未知の体験をすることに在り、これらの資料はそのような体験を我々に豊富に提供してくれる。</p> <p>個人的経験例を通して、そのような読書の楽しみをお伝えしたい。</p>													
【到達目標】													
<p>講師の経験を通じて、読書のヒントを得てもらう。そのまま応用してもらえ知識や技術も無いではないが、それ以上に、自ら自分なりの知識や技術を獲得・蓄積していくことが出来るキッカケを得てもらいたい。</p>													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 文献学の基本的考え方 第2回 文献伝承の基本状況 第3回 宋版の基本状況 第4回 経注疏の宋元版 第5回 中国語と日本語の違い 第6回 鄭注三礼 第7回 鄭注論語 第8回 鄭注の論理 第9回 皇侃 第10回 劉炫 第11回 孔穎達 第12回 テクストの全体構造と分断化 第13回 孝経孔伝・述議・御注 第14回 趙匡たち 第15回 清学 フィードバック。その方法については授業時に指示する。</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
履修人数が十分少なければ平常点による。履修人数が多い場合はレポートを課す。													
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----													

中国哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

特に定まったテキストは使用せず、教室でプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

喬秀岩・葉純芳 『学術史読書記』 (三聯書店)

喬秀岩・葉純芳 『文献学読書記』 (三聯書店)

[授業外学習(予習・復習)等]

できるだけ長い時間注疏に触れてみる。

(その他(オフィスアワー等))

開講日時は5月初旬にKULASISを通して連絡の予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		武田 時昌 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の思想と科学(上)									
[授業の概要・目的]											
<p>人文学はいま岐路に立たされている。存在とは何か、世界がなぜむしろ実在するか、不可知であることを前提にして至遠の理を洞察せよとはどういうことなのか。ゲノム解読によって示された生命観、歴史観は、過去の哲学的命題をちらにし、人類の文明史観、文化認識はちっぽけな自己満足にすぎないことを言い立てている。世界の永遠とは落陽の女神とともに海の彼方に沈む運命にあり、旅だった愛すべき詩人は二度と詩歌を口ずさんでくれない。</p> <p>再生医療や不妊療法が難病克服を旗頭にして生命操作の危険を冒しはじめた現今、先端技術の暴走族をどんな倫理規範で取り締まればいいたろうか。論じえないことに沈黙せねばならないとしても、語りえないことを語り続ける価値はある。では、パラダイムシフトの旗手となる未来の若者にいったい何を語り継ぎ、世界の記憶とすればいいのか。</p> <p>現代人は多忙で苦悩に満ちた日常に立ち尽くしている。高度な科学技術がもたらした長寿社会やネット世界は、前近代社会と比較してどれほどの幸福感や安堵感を増進させたというのか。「いかに生きるべきか、どのように生き長らえ、死を迎えるのか」、そんな問いかけに模範解答すら提示できないでいる。科学的、実証的であろうとする人文学は、生きる知恵というサイエンスの原義に回帰すべきである。</p> <p>そのような視座に立って、東アジアの伝統科学文化を振り返れば、天地自然と人倫社会の相互作用をアナロジーにして、社会のあり方、人間の生き方をユニークな思索を巡らしている。自分らしく生きること、考えることを追究するうえで、有益なアイデアをそこにいくつも見出すことができる。そこで、本授業では、老子と易の自然哲学を思想源とし、漢代の思想革命を経て醸成した中国的パラダイムに構造的把握を試み、その特質や可能性、限界性を探る。</p> <p>なお、前期は古代(先秦から漢まで)、後期は中世から20世紀までを議論する。</p>											
[到達目標]											
東洋的思考のルーツを辿りながら大学生活の知的活動がいかにあるべきかを問い直し、生き方、考え方のパラダイムを古代人の叡智に学ぶことで、真の学問に目覚めた読書人としてキャンパスを独り歩きできるようになる。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生きる知恵とは何か：サイエンス原論 2. 伏羲と女#23207の幻方と数碼：中国文明の起源 3. 暗闇は無く、無知があるのみ：老子と孔子のシュールな笑い 4. 一から水への化身：万物生成論の時空ドライバー 5. 孤立無援の方位学：天円地方の世界観 6. アメとムチのダイナミックス：刑徳二元論の構図 7. 地母神の死兆星と君主の名前：先秦の惑星観と災異説 8. 始皇帝スキャンダルなんかぶっ飛ばせ：秦王朝文明開化論 9. 時の漂流者はWorld-Lineに居るよ：未決想定 of 中国的不可知論 10. 馬々虎々の万元戸：『淮南子』の中国的処世観 11. 復讐と天災のストラテジー：春秋公羊学のゲーム理論 											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

- 12. 朋友よ、蒼天を見よ：前漢末救世主伝説
- 13. 灸から鍼へのパラダイムシフト：漢代医学革命の構造
- 14. とある儒学の禁書目録：緯書の天文暦数と易姓革命
- 15. 金声玉振の集大成：孟子から王充・鄭玄への自然学の系譜

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（自主レポート歓迎）。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

フィードバックの方法については、授業時に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		武田 時昌 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の思想と科学(下)									
[授業の概要・目的]											
<p>人文学はいま岐路に立たされている。存在とは何か、世界がなぜむしろ実在するか、不可知であることを前提にして至遠の理を洞察せよとはどういうことなのか。ゲノム解読によって示された生命観、歴史観は、過去の哲学的命題をちらにし、人類の文明史観、文化認識はちっぽけな自己満足にすぎないことを言い立てている。世界の永遠とは落陽の女神とともに海の彼方に沈む運命にあり、旅だった愛すべき詩人は二度と詩歌を口ずさんでくれない。</p> <p>再生医療や不妊療法が難病克服を旗頭にして生命操作の危険を冒しはじめた現今、先端技術の暴走族をどんな倫理規範で取り締まればいいたろうか。論じえないことに沈黙せねばならないとしても、語りえないことを語り続ける価値はある。では、パラダイムシフトの旗手となる未来の若者にいったい何を語り継ぎ、世界の記憶とすればいいのか。</p> <p>現代人は多忙で苦悩に満ちた日常に立ち尽くしている。高度な科学技術がもたらした長寿社会やネット世界は、前近代社会と比較してどれほどの幸福感や安堵感を増進させたというのか。「いかに生きるべきか、どのように生き長らえ、死を迎えるのか」、そんな問いかけに模範解答すら提示できないでいる。科学的、実証的であろうとする人文学は、生きる知恵というサイエンスの原義に回帰すべきである。</p> <p>そのような視座に立って、東アジアの伝統科学文化を振り返れば、天地自然と人倫社会の相互作用をアナロジーにして、社会のあり方、人間の生き方をユニークな思索を巡らしている。自分らしく生きること、考えることを追究するうえで、有益なアイデアをそこにいくつも見出すことができる。そこで、本授業では、老子と易の自然哲学を思想源とし、漢代の思想革命を経て醸成した中国的パラダイムに構造的把握を試み、その特質や可能性、限界性を探る。</p> <p>なお、前期は古代(先秦から漢まで)、後期は中世から20世紀までを議論する。</p>											
[到達目標]											
東洋的思考のルーツを辿りながら大学生活の知的活動がいかにあるべきかを問い直し、生き方、考え方のパラダイムを古代人の叡智に学ぶことで、真の学問に目覚めた読書人としてキャンパスを独り歩きできるようになる。											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1.一にして多、多にして一の多次元俗流空間：子部書の雑木林 2.百六陽九災厄的死亡筆記本：終末論の中世的展開 3.三善清行の革命勘文と長寿者の食卓：終末論の日本的展開 4.幻の六番扉の向こうに七色の虹が出ています：中世社会色彩文化論 5.ヒナまつり、雪まつりの念動力：年中行事のサイエンス 6.網路妹妹們的語る身体：仙界ユートピアの不死幻想 7.血と骨のフォークロア：孟姜女伝説の思想史的考察 8.宋儒が発見した聖図の想像力：象数易の新展開 9.ささやく魔術のレベル7：近世万能薬の文化史 10.黒服ライダーはいかにして都市伝説となったのか：日用類書の科学啓蒙 11.ほら吹きピットの空島漂流記：東と西の科学の出会い 											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

- 12.自鳴鐘は文明開化の音がする：東アジア四大発明新論
13.君は希望の目録に何を記憶させるのか：中国非物質文化論
14.宇宙博士のターニングイースト：東アジア伝統科学の復権
15.君の一声でとうとう発進です：東洋思想の終着駅

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（自主レポート歓迎）

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

フィードバックの方法については、授業時に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宇佐美 文理 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		国朝文録精読									
【授業の概要・目的】											
<p>古典文献の講読を通して、漢文読解力を養うと共に、中国文化への理解を深める。そのために『国朝文録』を精読する。授業は、各文章毎に、学生諸氏に訳注を準備してもらい、授業時に参加者全員で内容等について議論検討する、という形式を取る。出典に確実に当たることを重視し、本文の文章や語句などすべての典拠、用例について、もとの書物（紙で出来た書物）を調べる作業を重視する。今年は巻八の論の部分を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>漢文を精読することにより、漢文読解力を養成する。さらに、出典を調べながら漢籍を読むことができるようになる。また、さまざまなジャンルの議論を読むことにより、中国の書物についての幅広い知識を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．授業の概要、授業の進め方、訳注の作り方などのガイダンス 2．正統論 3．賈似道公田論 4．責善論 5．王猛論 6．防海 7．訛言 8．司馬温公傳論 9．公孫弘論 10.五宗論 11.承重論 12.治論 13.原教 14.原命 15.伊尹論 16.宋論 17.遠慮論四首 18.曾參論 19.道不拾遺説 20.封建郡県利害論二首 21.論陷賊官以六等定罪 22.論国君死社稷 23.権論 24.戦論 25.八陳論 26.（まだれに龍）涓論 											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

- 27.趙勝論
28.李広論
29.趙充國論
30.フィードバック（詳細は授業時に説明する）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点による。（漢文読解、典拠の調査等を総合的に判断する。訳注作成ならびに毎時間の発表が100%。）

【教科書】

テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
授業時に紹介する。

【授業外学習（予習・復習）等】

綿密な下調べが必要です。

（その他（オフィスアワー等））

内容の項目に書いたように、典拠や用例については紙のテキストに必ず当たるという作業を重視するので、参加者には毎時間、相当程度の時間にわたる予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		孫志祖『読書 月坐 録』									
【授業の概要・目的】											
清・孫志祖『読書 月坐 録』を読む。孫志祖が関心を持ったテーマに対し、様々な角度から考察した過程を、『読書 月坐 録』を精読することで追体験してもらう。多彩なテーマの考証を読むことは、古典読解能力を高めるとともに、その考証の手法を学ぶことをも可能にするであろう。話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶので、様々な専攻の学生の出席を望む。											
【到達目標】											
中国古典文献を、典拠や用例を調べながら正確に読解し、またそれを自然な日本語訳にする能力を身につける。またそこに披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。											
【授業計画と内容】											
毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。なお前年度の続きから読解することになるが、各回が内容として連続するわけではないので、今年度からの出席はもちろん問題ない。											
1 ガイダンス											
2 洪範無錯簡											
3 日蒙日駅											
4 康誥四十八字											
5 非木 字											
6 迪惟・恵鮮											
7 霍叔											
8 三朝・荒度											
9 齊詩											
10 毛詩置弟子											
11 毛伝非毛菴											
12 維参与昂											
13 韓詩外伝引衛女詩											
14 流離											
15 釈文誤入注											
16 蠶月条桑											
17 十月之交											
18 杼柚・行葦(1)											
19 行葦(2)・彼徂矣											
20 亦服爾耕											
21 以字為諡(1)											
22 以字為諡(2)											
23 城小穀											
24 王族											
25 生而賜諡											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

中国哲学史(演習) (2)

26 封父

27 太宰<喜 + 否>

28 孔子生

29 公羊経衍文

30 公羊伝脱文

フィードバックの方法は授業時に説明する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

【教科書】

授業中に指示する

テキストはコピーして配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

演習は学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相当な予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 古勝 隆一 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『莊子』郭象注を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>『莊子』は道家思想の核心的な文献であるが、同書を理解するために欠かせないのが、西晋の郭象が書いた注釈である。この授業では、『莊子』郭象注をなるべく厳密に読み解くことを目標とする。</p> <p>ただ、『莊子』が難解であるのみならず、郭象の注も相当に難解である。テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはむろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>前期は、斉物論篇の前半を読むこととする。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『莊子』郭象注の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『莊子』及び郭象注を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 											
[授業計画と内容]											
<p>『莊子』郭象注の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回～10回 斉物論篇「南郭子其隠几而坐」章 ・第11回～12回 同篇「夫道未始有封」章 ・第13回～14回 同篇「齧缺問乎王倪」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
[履修要件]											
<ul style="list-style-type: none"> ・概説書程度の現代中国語を読んで理解できること。 ・現代中国語の発音ができること。 ・正しい日本語を書くことができること。 											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。平常点は出席状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストは教室にて配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『辞源(修訂本)』(いずれも商務印書館)、もしくは『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学習(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 古勝 隆一 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『莊子』郭象注を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>『莊子』は道家思想の核心的な文献であるが、同書を理解するために欠かせないのが、西晋の郭象が書いた注釈である。この授業では、『莊子』郭象注をなるべく厳密に読み解くことを目標とする。</p> <p>ただ、『莊子』が難解であるのみならず、郭象の注も相当に難解である。テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはむろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>後期は、斉物論篇の後半を読むこととする。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『莊子』郭象注の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。 ・訓詁に着目し、『莊子』及び郭象注を正確に理解する。 ・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。 											
[授業計画と内容]											
<p>『莊子』郭象注の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 ガイダンス ・第2回～12回 斉物論篇「瞿鵠子問乎長梧子」章 ・第13回 同篇「罔兩問景」章 ・第14回 同篇「昔者莊周夢為胡蝶」章 ・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する） 											
[履修要件]											
<ul style="list-style-type: none"> ・概説書程度の現代中国語を読んで理解できること。 ・現代中国語の発音ができること。 ・正しい日本語を書くことができること。 											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。平常点は出席状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
必要なテキストはPDFにて配布する。

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。
『新華字典』『古代漢語詞典』『辞源(修訂本)』(いずれも商務印書館)、もしくは『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学習(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『朱子言論同異攷』講読（前年度から継続）									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮の朱子学者韓元震（1682～1751）の主著『朱子言論同異攷』を読む。同書は「理気」「理」「陰陽」「五行」「天地」等の項目ごとに朱熹の言論の異同を指摘し、その早晩の鑑別や「定論」の判定を企図したものである。授業は輪読形式で行い、担当者が作成した訳注原稿を受講者全員で検討する。受講者には各自、同書所引の朱熹語の原典に当たり、異同の持つ意味を整理した上で、韓元震の所論の是非を批判的に検証することを要求する。</p> <p>テキストはソウル大学校奎章閣蔵『朱子言論同異攷』を使用する（プリント配布）。</p>											
【到達目標】											
<p>テキストの精読を通して高度の漢文読解・出典調査能力を錬成し、朱子学に対する理解を深め、朝鮮朱子学に関しても一定の知見を得ることに加え、朝鮮学の諸資料や工具書（電子媒体を含む）の利用方法を身につけることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。 第2回～第15回 資料講読</p> <p>テキストを順次講読する。進度は1回につき影印本1葉程度を目安とする。必要に応じて講読を休止し、担当教員が内容整理、総括や補足説明を行う場合も有る。 フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
【教科書】											
使用しない											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

『朱子語類』『朱文公文集』『四書集注』『四書或問』等、朱熹の著作によって『朱子言論同異攷』所引の朱熹語の原典にあたること。また『南塘集』の調査等により、『朱子言論同異攷』における韓元震の主張の背景を検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『朱子言論同異攷』講読(前年度から継続)									
[授業の概要・目的]											
<p>朝鮮の朱子学者韓元震(1682~1751)の主著『朱子言論同異攷』を読む。同書は「理気」「理」「陰陽」「五行」「天地」等の項目ごとに朱熹の言論の異同を指摘し、その早晩の鑑別や「定論」の判定を企図したものである。授業は輪読形式で行い、担当者が作成した訳注原稿を受講者全員で検討する。受講者には各自、同書所引の朱熹語の原典に当たり、異同の持つ意味を整理した上で、韓元震の所論の是非を批判的に検証することを要求する。</p> <p>テキストはソウル大学校奎章閣蔵『朱子言論同異攷』を使用する(プリント配布)。</p>											
[到達目標]											
<p>テキストの精読を通して高度の漢文読解・出典調査能力を錬成し、朱子学に対する理解を深め、朝鮮朱子学に関しても一定の知見を得ることに加え、朝鮮学の諸資料や工具書(電子媒体を含む)の利用方法を身につけることを目標とする。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。 第2回~第15回 資料講読</p> <p>テキストを順次講読する。進度は1回につき影印本1葉程度を目安とする。必要に応じて講読を休止し、担当教員が内容整理、総括や補足説明を行う場合も有る。 フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

『朱子語類』『朱文公文集』『四書集注』『四書或問』等、朱熹の著作によって『朱子言論同異攷』所引の朱熹語の原典にあたること。また『南塘集』の調査等により、『朱子言論同異攷』における韓元震の主張の背景を検討すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 21550 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『文選』の文章を読む(曹植「七啓」)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることを最大の目的とする。最初は漢文とその読み方について概説をし、またテキストとなる『文選』について紹介する。</p> <p>その上で、実際の『文選』収録の文章として、三国魏の曹植による「七啓」を読解する。なおその際、『文選』に附された李善による注釈もあわせて読むことで、漢文読解における注釈の意義について考えてもらう。</p>											
【到達目標】											
<p>目標は下記の四点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。 2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。 3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。 4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初のうちは講義形式で進め、時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう。</p> <p>曹植「七啓」を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳 3 漢文の読み方：典故について 4 漢文の読み方：注釈について 5 漢文の読み方：注疏について 6 漢文の読み方：対句、文体について 7 『文選』について：成立と受容 8 『文選』について：李善注と五臣注 9 ~30 曹植「七啓」の読解と討議 <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国哲学史(講読)(2)へ続く -----											

中国哲学史(講読)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

[教科書]

授業中に指示する
テキストはコピーして配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

基本的には学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相当な予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 5 2

科目ナンバリング		U-LET13 11602 LJ36											
授業科目名 <英訳>		系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科				藤井 正人 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語		
題目		サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)											
【授業の概要・目的】													
ヴェーダからウパニシャッドに至るヴェーダ文献の歴史をたどることによって、古代インドの宗教と思想の展開と、古代インド文化の基本的な特徴を学ぶ。													
【到達目標】													
ヴェーダ文献に関する基本的な知識を習得するとともに、文献資料を通して古代インドの社会と文化の実像を解明するサンスクリット文献学の方法と有用性を理解する。													
【授業計画と内容】													
第1回 古代インドの歴史と言語 第2回 ヴェーダとはどのような文献か 第3回 リグ・ヴェーダについて 第4回 リグ・ヴェーダを読む(1) 第5回 リグ・ヴェーダを読む(2) 第6回 ヤジュル・ヴェーダ、サーマ・ヴェーダ、アタルヴァ・ヴェーダ 第7回 ヴェーダ祭式(1) 第8回 ヴェーダ祭式(2) 第9回 ブラーフマナ文献 第10回 ヴェーダ祭式の思想性 第11回 輪廻思想の成立 第12回 初期ウパニシャッド 第13回 中期ウパニシャッド 第14回 ダルマ・スートラからダルマ・シャーストラへ 第15回 総括 定期試験													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
定期試験を行う。ヴェーダ文献について、一般の概説に基づいてではなく、授業の内容に即して理解しているかどうかで評価する。													
----- 系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く -----													

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習は必要ない。板書しながら講義をするので、確実にノートに筆記すること。毎回、授業後、筆記したものを再確認して理解を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

サンスクリット文献全般について学ぶために、サンスクリット文献史(叙事詩以降)も受講することが望ましい。また、インド思想のその後の展開を知るためには、インド哲学史を受講することをすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11604 LJ36									
授業科目名 <英訳>	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 文学研究科		横地 優子 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	サンスクリット文献史(叙事詩以降)										
【授業の概要・目的】											
本授業では、インド二大叙事詩『マハーバーラタ』(「偉大なるバラタ族の物語」)と『ラーマヤナ』(「ラーマの勲」)以降に作られたサンスクリット文献について、分野別とその歴史的背景と内容を多角的な視点をもって概説する。これを通じて、インド古代・中世の思想、文化、社会の基本的枠組みを学び、理解することを授業の目的とする。											
【到達目標】											
インド古代・中世の思想、文化、社会を形づくる基本的枠組みを学び、理解することにより、関心ある主題に関して自学する能力が育まれることが期待される。											
【授業計画と内容】											
第1回 サンスクリット文献全般と授業で扱う分野の概説 第2回 2大叙事詩の内容と特徴 第3回 2大叙事詩の成立過程 第4回 ダルマと人生の四大目的(法、実利、愛、解脱) 第5回 法典文献と政治学文献 第6回 ヒンドゥー教の形成：一神教信仰の成立とヒンドゥー神話 第7回 古伝承文献(プラーナ)の内容概観・形成史 第8回 プラーナの世界観・時間観 第9回 インドにおける説話：動物寓話と大説話 第10回 サンスクリット美文学(カーヴィヤ)のジャンル・内容概観 第11回 サンスクリット詩の諸特徴 第12回 演劇と美的体験の理論 第13回 サンスクリット詩学の発展とその諸文献 第14回 カーヴィヤの形成期から成熟期、代表的作品 第15回 定期試験 第16回 フィードバック(方法は授業中に指示する)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期中に課す簡単なレポートを考慮に入れた平常点(50%)、定期試験(50%)により評価する。											
【教科書】											
教科書は特に使用しない。参照すべき資料は、授業内容に合わせて適宜紹介、配布される。叙事詩とカーヴィヤについては、世界歴史大系「南アジア史1：先史・古代」(山崎元一・小西正捷編)											
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

山川出版社（2007年）の「第9章：文学史の流れ」を主たる教材とする。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

各ジャンルごとの参考文献リストを授業中に配布するか、KULASISにアップロードする。

[授業外学習（予習・復習）等]

予習は必要ない。授業中に配布する資料などを使って、講義内容の復習をすることが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

サンスクリット文献全般について学ぶためには、サンスクリット文献史（ヴェーダ文献）、インド哲学史（前期と後期）も合わせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		横地 優子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		カーヴィヤ研究									
【授業の概要・目的】											
<p>9世紀にカシュミールでシヴァシュヴァーミン焔vasvaminによって著された『Kapphinabhyudaya (カッピナ王の興隆)』は、成熟期のマハーカーヴィヤの代表作であるマーガ作『焔焔palavadha (シシュパーラの殺害)』(6世紀)を模範として作られていると思われる。また同じカシュミールで著されたラトナーカラ作『Haravijaya (ハラの勝利)』(9世紀)やマンカ力作『焔ikanthacarita (シユリーカントの勲功)』(12世紀)との影響関係も見いだせる。こうした影響関係は、特に季節、日没、月の出、宴会、水遊び、日の出など、物語の筋と無関係にマハーカーヴィヤに含まれるべきとされる主題を扱う章において著しい。この授業ではまずこれらの作品の構成上の類似を示したうえで、『Kapphinabhyudaya』から上記の主題を扱う章の一つをとりあげ、他作品と類似する表現や比喻、発想を検討する。それによって、インドの詩の伝統の中で、伝統の踏襲と独創性が相互にどのように機能していたのかを考察したい。</p>											
【到達目標】											
成熟期の、技巧をこらしたサンスクリット詩を読解する力が身につく。またインドにおける文学の伝統が実際にどのように機能していたのかを学ぶことができる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1～2回 Kapphinabhyudayaと他の3作品の概説、作品間の構成比較 第3～14回 Kapphinabhyudaya第7章または第9～15章から一つの章をとりあげ、講読しながら、他の3作品の対応する章における類似する表現、比喻、技法、発想などを検討していく。 第15回 総括</p>											
【履修要件】											
中級以上のサンスクリット読解能力											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
<p>授業中に扱うテキストの章については、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。主たるテキストは、Michael Hahn (compiled by Yusho Wakahara), Kapphinabhyudaya or King Kapphina's Triumph: A ninth century Kashmiri Buddhist Poem. Institute of Buddhist Cultural Studies, Ryukoku University, Kyoto, 2007. (978-4-8318-7281-4 C3015)。</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で扱う作品はいずれもレベルの高いカーヴィヤであり『焔焔palavadha』以外は現代語訳が存在しないので、予習に十分な時間が必要となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		VASUDEVA, Somdev 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Manameyodaya and Tarkasamgraha									
【授業の概要・目的】											
<p>How did the systematizers of the realist Mimamsa, Nyaya and Vaisesika schools of philosophy in the seventeenth century approach the inherited ancient philosophical texts of their own school? As newly developed navina- (Neo-) systems, what attitude did they show to the ancient authorities of their own system? To answer these questions we will look at the work of Narayana and Annambhatta, whose work became so popular as to become a standard introductory manuals. We will learn how to read the text with the aim of determining what issues motivated the author to adopt given strategies, and ultimately uncover what problems his systematization was trying to address.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will learn how to read and study the epistemological sections of Manameyodaya of Narayana and the Tarkasamgraha of Annambhatta. The aim is to enable students to understand the fundamental principles of sastric debate. This will serve as a basic introduction to the methodology of the new style of philosophy that came to dominate all fields of enquiry. Students will read passages explaining, in simple and clear style, some of the major tenets of the newly Mimamsa and Nyaya-Vaisesika systems and see how they relate to earlier ideas and later developments.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1: Introduction. Week 2: Prama, Pramana, Prameya and Pramatr. What are the major categories of discourse? Week 3: Perception (pratyaksa), intrinsic and extrinsic validity. Week 4: Testimony (sabda) Week 5: Analogy (upamana) and its object Week 6: Presumption (arthapatti) Week 7: Negation Week 8: Objects of veridical knowledge Week 9: Substance Week 10: Genus Week 11: Quality Week 12: Action Week 13: Non-existence Week 14: Yogic perception Week 15: Concluding discussion.</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

【履修要件】

Ability to read basic Sanskrit.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Evaluation is based on regular attendance, participation by asking questions relevant to the readings, and a final essay to be handed in by week 15. The subject of the essay should touch on any aspect of texts we have read and discussed.

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

Y. V. Athalye 『The Tarkasamgraha of Annambhatta』 (Bombay. 1897)

S. Kuppaswami Sastri 『A Primer of Indian Logic』 (Kuppaswami Shastri Research Institute. Madras. 1951.)

【授業外学習(予習・復習)等】

Preparatory reading of passages to be read and discussed in class.

(その他(オフィスアワー等))

To be determined.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Simple "saastra-literature: the Kaarakacakra by Purushottamadeva and related works									
【授業の概要・目的】											
<p>In this course, we will read and analyze the Karakacakra attributed to Purushottama (fl. ca. 12th century AD), an influential Buddhist grammarian and polymath from Bengal. Despite the text's title, it deals primarily with the meanings of nominal endings - that is, " declension triplets " (vibhaktis) - and discusses the actual kaarakas only in connection to them.</p> <p>Although the description of the topic may sound very technical, Purushottama's treatment is almost entirely free from specialized discussions pertaining to the interpretation of the actual rules of the Astadhyayi. Accordingly, Karakacakra can be rather situated within the domain of " philosophy of language " (with an often distinct Buddhist undertone), a field that is largely believed to have been neglected by Sanskrit scholarship during the long period between Bhartrhari (fl. ca 5th cent.) and Kaundabhatta (ca. 17th cent.).</p>											
【到達目標】											
<p>to develop skills in reading, understanding and translating "saastric literature in Sanskrit</p> <p>to develop and deepen an understanding of Paninian notion of kaaraka-s and various related subjects</p>											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) on the subject of kaaraka-, during the remaining weeks 2 to 15, we will read, translate and analyze the Karakacakra by Purushottama.</p>											
【履修要件】											
<p>This course is primarily directed at students starting from the third year of Sanskrit and above. No knowledge of the Paninian system of grammar is necessary. Classes will be held in English.</p>											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>Preparation of translations of Sanskrit text at home, active participation in the classroom.</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

The students will need to prepare English (or any language) translations of Sanskrit texts

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 5 7

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36											
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科				藤井 正人 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		ヴェーダ祭式文献研究											
[授業の概要・目的]													
古代インドの宗教儀礼体系であるヴェーダ祭式には、大小さまざまな儀礼が含まれている。多くは、基本的な祭式を共通要素あるいは枠組として、それらにさまざまな行為を組み合わせた、いわば祭式の複合体である。授業では、ブラーフマナとシュラウタ・スートラを教材にして、典型的な祭式複合体である王即位式（ラージャスーヤ）の構造を学ぶ。													
[到達目標]													
特定の祭式行為に関する古いブラーフマナと新しいシュラウタ・スートラの記述を比較・検討することによって、ヴェーダ祭式文献の発達史とヴェーダ祭式の体系化に関する理解を深める。													
[授業計画と内容]													
第1回 ヴェーダ祭式と王即位式について概説する。 第2回～第15回 ブラーフマナとシュラウタ・スートラの関係箇所から重要な部分を選んで精読し、内容を検討する。													
[履修要件]													
サンスクリット基礎文法の既習者													
[成績評価の方法・観点及び達成度]													
平常点による。													
[教科書]													
教材を授業時に配布する。													
[参考書等]													
(参考書) 授業中に紹介する													
[授業外学習(予習・復習)等]													
予習を必要とする。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		藤井 正人 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		最初期ウパニシャッド研究									
[授業の概要・目的]											
最初期のウパニシャッドである『ジャイミニヤー・ウパニシャッド・ブラーフマナ』から重要な箇所を選んで内容を検討するとともに、それらの箇所の思想史上の意義について考察する。											
[到達目標]											
最古のウパニシャッドを精読することによって、初期散文ウパニシャッドの文体に習熟するとともに、ウパニシャッドという文献群がどのような思想史の流れの中で誕生したかについての理解を深める。											
[授業計画と内容]											
第1回 『ジャイミニヤー・ウパニシャッド・ブラーフマナ』(JUB) 概観											
第2回 JUB精読 1.28-30: サーマンによる上昇と太陽への解放(1)											
第3回 JUB精読 1.28-30: サーマンによる上昇と太陽への解放(2)											
第4回 JUB精読 3.8-10: 人間の三度の生死(1)											
第5回 JUB精読 3.8-10: 人間の三度の生死(2)											
第6回 JUB精読 3.11-15: 歌詞のないサーマンによる天界への死後の上昇(1)											
第7回 JUB精読 3.11-15: 歌詞のないサーマンによる天界への死後の上昇(2)											
第8回 JUB精読 3.20-27: 死後の身体諸要素の回収(身体の再形成)(1)											
第9回 JUB精読 3.20-27: 死後の身体諸要素の回収(身体の再形成)(2)											
第10回 JUB精読 3.20-27: 死後の身体諸要素の回収(身体の再形成)(3)											
第11回 JUB精読 3.28: 地上への再生											
第12回 JUB精読 3.29-30: 身体のない死んだ叔父に出会う話											
第13回 JUB精読 3.38-42: 歌詞のないサーマンと不死(1)											
第14回 JUB精読 3.38-42: 歌詞のないサーマンと不死(2)											
第15回 総括: JUB のヴェーダ文献史における位置付け											
[履修要件]											
サンスクリット基礎文法の既習者											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。											
[教科書]											
教材を授業時に配布する。											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

辻 直四郎 『ウパニシャッド』 (講談社学術文庫) ISBN:4-06-158934-2

服部正明 『古代インドの神秘思想 初期ウパニシャッドの世界』 (講談社学術文庫) ISBN:4-06-159731-0

[授業外学習(予習・復習)等]

予習を必要とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都先端科学大学 経済経営学部 教授 文学研究科		山下 勤 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド伝統医学文献概説 (A Survey of Traditional Medical Literature in India)									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、インド伝統医学のサンスクリット語文献を概観し、インド伝統医学全般の基礎的知識を提示することにある。とくに今年度は、インド伝統医学文献に見られる医学理論について、その歴史的な発展過程に留意しながら考察する。</p> <p>(The purpose of this lecture is to show the basic knowledge of traditional medicine in India through the survey of Sanskrit medical literature. This year's lecture will focus on the study of medical theories in traditional Indian medicine.)</p>											
【到達目標】											
<p>様々なインド伝統医学文献に見られる医学理論についての理解を深め、インド医学史に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>(To acquire basic knowledge of the history of medicine in India through understanding traditional medical theories shown in the various traditional Indian medical texts.)</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第2回 インド医学史とサンスクリット医学文献についての概要説明 (1st and 2nd: Introduction)</p> <p>第3回～第4回 インド伝統医学の病理論とその歴史的発展過程について (3rd and 4th: Pathology in traditional Indian medicine and its historical developments)</p> <p>第5回～第6回 医学文献講読 『チャラカ・サンヒター』第3編の一部 (5th and 6th: Reading the Sanskrit medical text, CarakasaMhitaa, III)</p> <p>第7回～第8回 医学文献講読 『スシュルタ・サンヒター』第4編の一部 (7th and 8th: Reading the Sanskrit medical text, SuzrutasaMhitaa, IV)</p> <p>第9回～第10回 医学文献講読 『アシュターンガ・サングラハ』第1編の一部 (9th and 10th: Reading the Sanskrit medical text, ASTaaGgasaGgraha, I)</p> <p>第11回～第12回 医学文献 『アシュターンガ・サングラハ』第2編の一部 (11th and 12th: Reading the Sanskrit medical text, ASTaaGgasaGgraha, II)</p> <p>第13回～第14回 その他のインド医学文献について (13th and 14th: On the other Sanskrit medical texts)</p> <p>第15回 フィードバックと総括 (15th: Feedback and general overview)</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

【履修要件】

事前にサンスクリット初等文法を履修すること。
(Sanskrit Grammar)

【成績評価の方法・観点及び達成度】

討論への積極的な参加などによる平常点（50点）、レポート（1回50点）により評価する。平常点およびレポートとも到達目標の達成度に基づき評価する。
(Discussions: 50 points and Report: 50 points based on an achievement degree of the course goals)

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

授業中に指示する
(Introduced during class)

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井田 克征 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中世バクティ文学研究									
[授業の概要・目的]											
<p>神への熱心な帰依（バクティ）により救済を目指すバクティの宗教は、12世紀以降には北インドの民衆の間で大きな発展を見せる。そこでは人々が帰依する神や、その化身たる聖者たちへの賛歌と、奇跡に満ちた彼らの行状記などが新期インド語によって精力的に生産された。この授業では、古マラーティー語で書かれたバクティ文献のいくつかを概観して、そこに残された当時の村落社会の日常生活の様子や、そこに生きる人びとの信仰のありようなどを学んでいく。</p> <p>授業は原典の英訳を使って進められるので、インド諸言語の知識は必ずしも必要ではない。特に必要な予備知識も無いので、南アジアの宗教・文化に興味を持つ学生には気軽に参加して欲しい。</p>											
[到達目標]											
<p>古典期のサンスクリット文献が描く宗教世界と、現代インドに見られるヒンドゥー社会との中間に位置し、両者を架橋する中世バクティ文学を学ぶことで、古典から現代への連続性を理解するとともに、文献に対しても現実のインド社会に対しても、その豊かな含みを視野に入れることが可能となる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：バクティについての概説 第2回～第4回：『ストラパート』の検討 第5回～第8回：『スムリティ・スタル』の検討 第9回～第11回：『エークナーティー・バーグヴァト』の検討 第12回～第14回：『バクト・ヴィジャヤ』の検討 第15回：まとめ</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
レポートおよび平常点											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業は原典の英訳資料にもとづいて進められるので、配付された資料を予習しておく。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		オックスフォード大学 All Souls College 教授 文学研究科			ACHARYA, Diwakar Na 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語	
題目		The true self is the underlying fourth: Readings on Gaudapada ' s Agamashastra										
【授業の概要・目的】												
The Agamashastra of Gaudapada (early 6th century or before) is a seminal work on Vedanta. He stood for the school of Vedanta before Shankara, Mandana, and Bhaskara. During this intensive course, we will read and discuss the first two chapters of Gaudapada's text. In the first chapter known as Agamaprakarana, he names and analyses four states of the self on the basis of Upanishadic teachings, identifies the fourth as the foundational and real, and shows how one could attain it by way of pacification of mind through meditation. In the second chapter known as Vaitathyaprakarana, he presents arguments to prove the unreality of the world.												
【到達目標】												
Students will learn from this course the tenets of the early Advaita Vedanta philosophy of Gaudapada and be informed about its affinity to Buddhist tenets and ways of reasoning.												
【授業計画と内容】												
Classes 1-3: Reading session and discussions on Agamashastra I.1-18. Classes 4-6: Reading session and discussions on Agamashastra I.19-29. Classes 7-9: Reading session and discussions on Agamashastra II.1-15. Classes 10-12: Reading session and discussions on Agamashastra II.16-30. Classes 13-15: Reading session and discussions on Agamashastra II.31-38.												
【履修要件】												
Students should have good knowledge of Sanskrit language and basic idea of Vedanta philosophy.												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
Performance in class. Interpretation and analysis of Sanskrit text. Critical evaluation of traditional interpretation. Comparison with the views of other Vedanta scholars before and after Shankara.												
【教科書】												
Bhattacharyya, Vidhushekhara. 1943. 『The Agamashastra of Gaudapada.』 (University of Calcutta.) (Edition, Translation and Annotation.)												
【参考書等】												
(参考書) 1. Kathavate, Abaji Vishnu. 1921. The Mandukyopanishat with Gaudapada's Karikas. Edited together with Shankara's Bhasya and Anandagiri's Tika. Anandashrama Sanskrit Text Series 10. Fourth edition. Poona: Anandashrama Press.												
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----												

インド古典学(特殊講義)(2)

2. Nikhilananda, Swami 1949: The Mandukyopanishad with Gaudapada's Karika and Shankara's Commentary. Translation and Annotation. Myore: Sri Ramakrishna Ashrama.

[授業外学習（予習・復習）等]

It is recommended that participants read Vidhushekhara Bhattacharyya's introduction to his edition of the text as a preparatory measure (see reference above).

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21643 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to the Paninian System of Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>The purpose of this class is to provide an introduction to the Paninian system of Sanskrit grammar, at least a basic understanding of which is an indispensable tool for the study of almost any genre of Sanskrit literature. On the one hand, the course participants will be introduced to the basic principles and workings of the Astadhyayi and, on the other hand, they will encounter several advanced topics pertaining to the exegesis and the application of individual rules of grammar.</p> <p>After a series of introductory lectures, the course participants will be guided along the text of a selected section of the Astadhyayi. Occasionally, we will make use of different commentaries on the text so as to gain a deeper understanding of the actual rules and of the hermeneutic strategies developed by the Paninian tradition.</p> <p>(Note that the course is designed in such a way as to allow repeated participation for those who have already attended the same class in the previous year(s).)</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - to study the basic technical vocabulary, derivational and semantic principles, as well as the organisation of Panini ' s Grammar - to study various parts of Panini's Grammar - to provide basic tools for an easy access to Panini's rules of grammar - to develop a deeper understanding of Sanskrit grammar and syntax 											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1-2: General Introduction to the Ashtadhyayi (Aa.s.taadhyayii)</p> <p>Week 3-30: Study of selected sections from the Astadhyayi and related literature</p>											
【履修要件】											
<p>Basic knowledge of Sanskrit. Classes will be held in English. Note that the course is designed in such a way as to allow repeated participation for those who have already attended the same class in the previous year(s).</p>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

Active participation in the classroom based on the review of the studied material.

[教科書]

授業中に指示する
Instructed during class.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
To be announced.

[授業外学習(予習・復習)等]

To be announced.

(その他(オフィスアワー等))

To be announced.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Reading kaavya-literature: simple kaavya (with commentary)									
【授業の概要・目的】											
<p>In this course, we will engage in the linguistic, stylistic and literary analysis of Sanskrit belletristic literature (kaavya-). The study of kaavya-, though certainly a largely enjoyable enterprise, has been since long recognized to have an important didactic value and thus integrated into the traditional syllabus for the study of Sanskrit. Attendance of this course will, therefore, be equally beneficial to all students of Sanskrit independent of their specific interests and areas of expertise.</p> <p>In this term, we will read, translate and analyze selected passages from classical Sanskrit poetic compositions. Whenever appropriate, we will further look at the explanatory passages from selected Sanskrit commentaries to the same texts.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> to develop skills in reading and understanding Classical Sanskrit kaavya to develop skills in reading and understanding of Sanskrit commentaries on kaavya- to develop skills in reading and interpreting Sanskrit kaavya literature on the basis of its commentaries to develop basic skills in translating Classical Sanskrit literature 											
【授業計画と内容】											
Throughout the term (Weeks 1-15) we will read, translate and analyze selected passages from classical Sanskrit poetic compositions. Whenever appropriate, we will further look at the explanatory passages from selected Sanskrit commentaries to the same texts.											
【履修要件】											
This course is primarily directed at students starting from the third year of Sanskrit and above. However, students, who have completed the introductory course to Sanskrit grammar, are encouraged to join. Classes will be held in English.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Preparation of translations of Sanskrit text at home, active participation in the classroom.											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

The students will need to prepare English (or any language) translations of Sanskrit texts.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 文化学部 准教授 志賀 浄邦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シャバラスヴァーミン作『シャーバラ・バーシャ』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>6世紀頃に活躍したと思われるミーマーンサー学派の学匠シャバラスヴァーミンは、同学派の根本教典『ジャイミニ・スートラ』(JS)に対して注釈を施した。本授業では、シャバラスヴァーミンによる注釈書『シャーバラ・バーシャ』のうち、主に認識論・論理学に関する議論が見られる箇所(JS 1.1.3以降)を読み解くことを通して、ミーマーンサー学派のプラマーナ(正しい認識手段)論の基本的な枠組みを明らかにすることを目的とする。さらに7世紀頃に登場するクマーリラによってシャバラの見解がどのように継承されたかについても考察してみたい。なお、『シャーバラ・バーシャ』に説かれる理論や思想は、仏教論理学者ディグナーガの主張を前提としたものと考えられるが、後代の仏教論理学者たちによって紹介され批判されている。適宜、仏教認識論・論理学との比較・対照も行いながら、テキストの読解を進めていきたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・哲学文献の注釈書のスタイルや読み方を知り、それに精通する。 ・テキスト上の問題点に気付き、それを的確に指摘し修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では、『シャーバラ・バーシャ』(『ジャイミニ・スートラ』1.1.3以降)を講読する。テキストは、フラウワルナーによる校訂本を使用する。</p> <p>第1～3回 イントロダクション、ミーマーンサー学派の思想体系、シャバラスヴァーミンの思想と年代に関する概説</p> <p>第4～14回 『シャーバラ・バーシャ』(ad JS 1.1.3～)の講読(前年度の続きから開始)</p> <p>第15回 全体の総括</p>											
【履修要件】											
サンスクリット語の文法的知識と基本的な読解能力を必要とする。											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（授業への参加度，授業中の発言，授業における発表等）100%

[教科書]

Erich Frauwallner, Materialien zur ältesten Erkenntnislehre der Karmamimamsa,
Wien 1968.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

- ・講読するテキストを事前に指定しておくので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後の時間に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		横地 優子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		『カターサリットサーガラ (Kathasaritsagara)』速読									
【授業の概要・目的】											
<p>ナラヴァーハナ・ダッタ(Naravahanadatta)がヴィディヤーダラ(vidyadhara)たちの帝王となる物語を主筋とする『大説話 (Brihatkatha)』を伝える諸作品のうち、12世紀にカシュミールで著されたソーマデーヴァ作『カターサリットサーガラ (説話の川の海)』は、その流麗な文章によって文学的価値も高く、また大説話の主筋以外の多彩な説話を含んでいる点で、説話集成としても貴重な文献である。また流麗ではあるが、非常に平明な文章であるため、初級・中級レベルのサンスクリット学習者が読むにはとても良い作品である。この授業では、この作品の第8巻、アスラを前生とするスールヤプラバ(Suryaprabha)王がヴィディヤーダラの帝王となる物語をとりあげるが、精読ではなく速読することで、語彙、シンタックス、文脈把握など、古典サンスクリットの読解能力を包括的に高めることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリットの読解能力（特に語彙とシンタックス）を包括的に強化することができる。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：『大説話』およびその研究状況に関する概説 第2～15回：Kathasaritsagara第8巻Suryaprabhaの講読。</p> <p>毎回の進度は受講者のレベルによるが、50～80詩節を程度を目標とする。また初見でテキストを読み文脈を把握する練習も行う。</p>											
【履修要件】											
初級程度のサンスクリット読解能力											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点により評価する。											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[教科書]

授業中に講読する部分については、プリント等を配布する。Nirnaya Sagar版（リプリントはMotilal Banarsidass）を底本とし、Brockhaus版も参照する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

受講者は毎回の授業のために翻訳を準備することが必須である。また復習をすることで、確実に語彙などの能力を身につけることができる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		VASUDEVA, Somdev 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Nyayasiddhantamuktavali on inference									
【授業の概要・目的】											
We will read the sections of the 17th century Nyayasiddhantamuktavali of Visvanatha with excerpts from the Dinakari and Ramarudri commentaries. The purpose of this class is to become familiar with the language and style of the modern Nyaya school by reading one of the most popular primers. The focus will be on learning the technical terminology and the basic method of analysis by looking at the definitions of the valid means to cognition and related topics.											
【到達目標】											
Students will learn how to read the later forms Sastric Sanskrit and discuss the prerequisites expected from the intended reader. At first students will focus on learning the fundamentals of the new style of navyanyaya analysis. Then students will learn how definitions can be made more precise by studying the newly introduced typology of qualifiers such as avacchedaka, visesana, visesya, prakara etc. The final goal is for students to become able to successfully analyze the basic definitions of the valid means of cognition.											
【授業計画と内容】											
Week 1-2: The history of Inferential Pervasion (vyapti). Weeks 3-8: The definitions of vyapti in the Nyayasiddhantamuktavali. Weeks 9-14: Analysis of definitions. Week 15: Summary and conclusion.											
【履修要件】											
Ability to read basic Sanskrit.											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Evaluation is based on regular attendance, participation in class discussions and by asking relevant questions. A short essay touching on any issue in the texts we have read and discussed is to be submitted by week 15.											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

Begin by reading:

Wada, Toshihiro, 1989: "Indo-shimonrigaku ni okeru seigensha (avacchedaka) (1)" (Delimiter (avacchedaka) in Navya-Nyaya (1)), Tokai-Bukkyo 34: 79-88.

The Karikavali of Vishwanath Panchanana Bhatta with the Commentary Siddhanta-Muktavali. Edited with notes by Mahadev Gangadhar Bakre. Bombay: Nirnayasagara Press, 1906.

Karikavali-Muktavali. Edited with the Dinakri of Dinakara and the Ramarudri of Ramarudra by Harirama Sukla. Kashi Sanskrit Series 6. Varanasi: Chowkhamba Sanskrit Series Office, 1951.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
[授業の概要・目的]											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>本講座では、Jaatakathavannanaa (ジャータカ(本生譚)注釈)より、シャーリープトラ、デーヴァダッタにまつわる物語や、『今昔物語集』に類話をもつ話など4つの短編を、Petavatthu-atthakathaa (餓鬼事注釈)より、「母の救済」という点で『盂蘭盆経』との共通要素を見いだすことのできるSaariputtatheramaatupetivatthuvannanaaを精読する。</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
[到達目標]											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-3回：テキスト講読 (Visavantajaataka)</p> <p>第4回-6回：テキスト講読 (Serivaanijajaataka)</p> <p>第7回-9回：テキスト講読 (Matakabhattajaataka)</p> <p>第10回-12回：テキスト講読 (Kacchapajaataka)</p> <p>第13回-15回：テキスト講読 (Saariputtatheramaatupetivatthuvannanaa)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業でテキストを精読し、その内容について討論する。 ・輪読形式での講読とする。 ・テキスト内容や受講者の習熟度によって進度は一定ではないことが予想されるが、目安として、1回の授業につきテキスト2ページ程度を読み進める予定である。 											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

輪読形式のため、平常点評価とする。

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

(参考書)

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』 (The Pali Text Society) ISBN:0 86013 315

水野 弘元 『パーリ語文法』 (山喜房佛書林) ISBN:4-7963-0010-4

【授業外学習(予習・復習)等】

テキスト講読は輪読形式で行うため、予習をして臨むことが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
現在もインド国内を中心に教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、プラークリットの一種でありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読みながら、プラークリットになれる。											
【到達目標】											
アルダマーガディーで書かれたテキストを読むことで、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつプラークリットの特徴を理解する。あわせて、Amgを伝持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。											
【授業計画と内容】											
1 回目：アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教の紹介。 2～5回目：文法書に即して、音韻変化、名詞変化、動詞の活用を確認する。 6～15回目：ジャイナ教団においても初学者が学ぶテキストである『Dasaveyaliya』の第6章「法の目的の叙述」を読む。この章は、ジャイナ教の教義や、出家者の行動規則などに幅広く言及し、適宜、他の関連文献とも対照しながら読み進める。 テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリット、プラークリットの知識を考慮して進める予定である。											
【履修要件】											
初級サンスクリットを履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点：授業内での発言（和訳等含む）											
【教科書】											
コピーを配布する 渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010. F. van den Bossche. Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業外学習はとくにない。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		横地 優子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的に辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2～6回 教科書のうち、「ナラ王物語」から数章を読む。 第7～11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12～14回 「カタールサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は毎回2頁程度の進度で読み進める予定である。フィードバックの方法は授業中に指示する。											
【履修要件】											
サンスクリット文法既習者											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
定期試験によって評価する。											
【教科書】											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 (Motilal Banardidass) ISBN:978-81-208-1362-2 (インド学研究室にて購入できる。)											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

インド古典学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分できなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリ文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

(その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましいが、どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科 藤井 正人 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])									
[授業の概要・目的]											
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。比較的簡単なヴェーダ散文を読みながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法と構文の基礎を習得する。											
[到達目標]											
サンスクリットの文章を正確に分析する技法を学ぶことによって、どの時代の、どのジャンルのサンスクリットにも対応できる読解力の基礎を身につける。											
[授業計画と内容]											
サンスクリット基礎文法の知識である程度読むことのできる『シャタパタ・ブラーフマナ』を教材にして、ヴェーダ散文の手ほどきを行う。そのあと、代表的な初期ウパニシャッドである『プリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』の一節ないし数節を精読する。教科書とともに、アクセントを伴った校訂本のプリント(授業時に配布)を用いて、語句・構文・アクセントなど、テキストのすべての要素を分析して読解する方法を学ぶ。辞書については、初めのうちは教科書の語彙集を用いるが、徐々に本格的な辞書や語源辞典を使いこなすことを目指す。 第1回 アクセントの表記と機能について解説するとともに、テキスト読解に関する基本的な方法について指示する。 第2回～第15回 テキストを精読する。 定期試験											
[履修要件]											
サンスクリット文法既習者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(50%)と定期試験(50%)により評価する。											
[教科書]											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banarsidass) ISBN:978-81-208-1363-2(インド学研究室にて購入できる。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回の予習・復習が必須である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系 7 1

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系 7 2

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系 7 3

科目ナンバリング		U-LET13 11702 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		VASUDEVA, Somdev 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		History of Indian Philosophy A									
【授業の概要・目的】											
This class aims to give an overview of the most influential traditions of Indian philosophical thought and to present brief summaries of the main doctrines as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.											
【到達目標】											
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought.</p> <p>2) Students will become familiar with the historical development of these themes.</p> <p>3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions.</p> <p>4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions.</p> <p>5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1. Introduction. Is philosophy the same as tradition, darsana or tarka? How do we study it? Can we compare it to other traditions?</p> <p>Week 2. The Vedas and Upanishads as the source. The argument of infallible tradition. The counter-argument of omniscient founders.</p> <p>Week 3. The grammarians and the language of philosophy. The style and content of Patanjali's Great Commentary. The Vakyapadiya and linguistic monism.</p> <p>Week 4. Abhidharma and the conceptual vocabulary of Buddhist thought.</p> <p>Week 5. Yogachara idealism. Phenomenological and ontological emptiness.</p> <p>Week 6. Nyaya. Knowledge and realism. Liberation through knowledge.</p> <p>Week 7. Vaishesika categorization. Prasastapada.</p> <p>Week 8. Samkhya dualism. The Samkhyakarika and the Yuktidipika.</p> <p>Week 9. Yoga analysis of mental processes. The Yogasutra and its commentaries.</p> <p>Week 10. Mimamsa hermeneutics. Kumarila and Prabhakara.</p> <p>Week 11. Advaita Vedanta. Shankara and his followers</p>											
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 12. Visistadvaita and Dvaita Vedanta. Theistic interpretations. Ramanujan and Madhva.

Week 13. Shaiva Siddhanta and Isvarapratyabhijna. Shaiva dualism and non-dualism

Week 14. Navya Nyaya. The Tattvacintamani and its influence on all schools of thought.

Week 15. Review.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Garfield, Jay 『Treatise on the Three Natures (Trisvabhavanirdesa)』 (Oxford University Press) (pp. 35-45 in William Edelglass and Jay Garfield (eds.), Buddhist Philosophy: Essential Readings. 2009)

Franco, Eli 『On the Periodization and Historiography of Indian Philosophy.』 (Publications of the De Nobili Research Library) (Periodization and Historiography of Indian Philosophy. Vienna 2013.)

Halbfass, Wilhelm 『The Sanskrit Doxographies and the Structure of Hindu Traditionalism』 (: State University of New York Press) (India and Europe: An Essay in Understanding. Albany, 1988)

Materials distributed in class.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

Details provided in class.

【授業外学習(予習・復習)等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

(その他 (オフィスアワー等))

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 11704 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		VASUDEVA, Somdev 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		History of Indian Philosophy B									
[授業の概要・目的]											
This class aims to give an overview of the most influential themes and problems debated in the Indian philosophical traditions as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought. 2) Students will become familiar with the historical development of these themes. 3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions. 4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions. 5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions. 											
[授業計画と内容]											
Week 1. Introduction. Metaphysics, Ontology, Epistemology and Cosmology.											
Week 2. Pramana Epistemology. What is an instrument of knowing? How many instruments are there?											
Week 3. Perception											
Week 4. Error and Doubt. What is error? How many types of doubt are there?											
Week 5. Inference. How can vyapti be established?											
Week 6. Verbal cognition. The relationship between word and meaning. What is a referent?											
Week 7. Analogy. Is analogy reliable?											
Week 8. Other means of knowledge.											
Week 9. Competing ontologies. Elements, categories, or phenomena? Substances, qualities and relations.											
Week 10. Theories of Causation.											
Week 11. Transformation and evolution.											
Week 11. Agency and action.											
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 12. The nature and qualities of the self.

Week 13. Non-existence.

Week 14. Theories of Time.

Week 15. Review.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Details provided in class.

【参考書等】

(参考書)

Taber, John 『A Hindu Critique of Buddhist Epistemology: Kumarila on Perception』 (Routledge) (London and New York:, 2005.)

Westerhoff, Jan 『The Dispeller of Disputes: Nagarjuna ' s Vigrahavyavartani. 』 (Oxford University Press) (2010)

Dravid, N. S. 『A Bouquet of Flowers of Reasoning (Nayakusumanjali)』 (Indian Council of Philosophical Research) (New Delhi 1996)

Details provided in class.

【授業外学習 (予習・復習) 等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

(その他 (オフィスアワー等))

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 11802 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、インドで大乗仏教が興るまでの思想史の流れを概説する。仏教誕生の背景から仏教教義が体系化されていく様子を初期仏教、部派仏教の順に追う。											
【到達目標】											
大乗仏教興起以前のインド仏教の特徴的な思想について、基本的な事項を理解した上で、全体の流れを把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
第1回 序論：仏教と仏教学											
第2回 仏教誕生の背景											
第3回 仏陀の生涯											
第4回 初期仏教：基本的な教説											
第5回 初期仏教：教説の特徴											
第6回 初期仏教：教団の発展											
第7回 部派仏教：アショーカ王と教団の分裂											
第8回 部派仏教：阿含（アーガマ）と論（アビダルマ）											
第9回 説一切有部の思想：概説											
第10回 説一切有部の思想：その世界観											
第11回 説一切有部の思想：五位七十五法の成立											
第12回 説一切有部の思想：五位七十五法											
第13回 説一切有部の思想：因果説と縁起解釈											
第14回 説一切有部の思想：実践と聖者の階位											
第15回 フィードバック											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の仏教学講義をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
三回程度の簡単な課題（30％）と筆記試験（70％）を行い、インド仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 11804 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、経量部の思想を含め、インドで大乗仏教が興って以降の思想史の流れを概説する。大乗仏教の興起とその展開を、大乗経典、中観学派、唯識学派、密教の順に追う。さらにチベット仏教について、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、宗派仏教の性格を持つ後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。											
【到達目標】											
インド・チベットにおける大乗仏教興起以降の特徴的な思想について、基本的な事項を理解し、全体の流れも把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
第1回 経量部の思想：概説											
第2回 経量部の思想：三世実有説批判と五位七十五法の整理											
第3回 大乗運動と大乗経典：概説											
第4回 大乗運動と大乗経典：空性と慈悲											
第5回 中観学派の思想：概説											
第6回 中観学派の思想：『中論』に説かれる縁起と空											
第7回 唯識学派の思想：概説とアールヤ識											
第8回 唯識学派の思想：三性説と空性理解											
第9回 仏教論理学派											
第10回 中期中観派											
第11回 後期インド仏教と密教											
第12回 前伝期のチベット仏教											
第13回 後伝期の仏教諸派の思想1（カダム派、サキャ派、カギユ派）											
第14回 後伝期の仏教諸派の思想2（ニンマ派、ジョナン派、ゲルク派）、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想											
第15回 フィードバック											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の授業は前期の内容を引き継ぐものなので、前期の仏教学講義を受講していることが望ましい。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

三回程度の簡単な課題（30％）と筆記試験（70％）を行い、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

予習の必要がある時は、授業中に指示する。
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 77

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。初回から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		船山 徹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の解釈法：インドと中国の両面から理解するために(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的一次資料と工具書 第2回：大蔵経の基礎知識と特徴と歴史、および特に注意すべき事柄 第3回：大正大蔵経を使用する時の注意と電子テキストの利用法 第4回：仏教漢語「真如」の中国的解釈を概説する 第5回：仏教漢語「如是」の原典講読と現代語訳 第6回：仏教漢語「如来」の原典講読と現代語訳 第7回：仏教漢語「衆生」と「有情」の原典講読と現代語訳その1 第8回：仏教漢語「衆生」と「有情」の原典講読と現代語訳その2 第9回：仏教漢語「衆生」と「有情」の原典講読と現代語訳その3 第10回：仏教漢語「衆生」と「有情」の原典講読と現代語訳その4 第11回：仏教漢語「経」の原典講読と現代語訳その1 第12回：仏教漢語「経」の原典講読と現代語訳その2 第13回：仏教漢語「忍」の原典講読と現代語訳 第14回：仏教漢語「心」の原典講読と現代語訳 第15回：仏教漢語「仏説」の原典講読と現代語訳</p> <p>フィードバックすべき変更が生じた場合の方法は授業中に説明します。</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

【授業外学習（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		船山 徹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教漢語の解釈法：インドと中国の両面から理解するために(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>漢字仏教語（仏教漢語）は中国と日本の仏教思想史の発展を知るための基本である。 中国の仏教徒は、サンスクリット語原典を逐一比較することなく、専ら漢語で仏教を理解した。 その結果、仏教漢語を理解する際に、インド本来の語義に加え、漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ、一語を二重三重に解釈して、意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。 この授業では、漢語に基づく仏教理解が、インド文化から何を継承し、中国でいかなる独自の展開を遂げたかを、基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知ることにも役立つ。</p>											
【到達目標】											
一、仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。 二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。 三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。											
あわせて以下3点を習得する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2. 仏教漢文の訓読法 3. 電子化された一次資料の使い方 											
【授業計画と内容】											
第1回：前期に学んだことを整理し、後期の内容と目標を説明する 第2回：仏教漢語「世俗諦」の原典講読と現代語訳 第3回：仏教漢語「言語道断，心行処滅」の原典講読と現代語訳その1 第4回：仏教漢語「言語道断，心行処滅」の原典講読と現代語訳その2 第5回：仏教漢語「如来蔵」と「仏性」の原典講読と現代語訳その1 第6回：仏教漢語「如来蔵」と「仏性」の原典講読と現代語訳その2 第7回：仏教漢語「五陰」と「五蘊」の原典講読と現代語訳 第8回：仏教漢語「天竺」と「天語」の原典講読と現代語訳 第9回：仏教漢語「天竺」と「天語」の原典講読と現代語訳 第10回：仏教漢語「正理」の原典講読と現代語訳 第11回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その1 第12回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その2 第13回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その3 第14回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その4 第15回：総括：仏教漢語の語義解釈 フィードバックすべき変更が生じた場合の方法は授業中に説明します。											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回，配布資料を作成し，それに基づいて原文を読み，現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば，授業中にその都度知らせます。

[授業外学習（予習・復習）等]

予習：

配布資料を基にして，授業で精読する箇所を下読みし，自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』 「撰異門分」における「三十七菩提分法」の考察									
【授業の概要・目的】											
<p>釈尊（ゴータマ・ブッダ）が説き示した真理内容は、「四諦」「五蘊」、そして「縁起」の各説として今に伝わる。ブッダは覚醒体験を経た後、その自覚内容を言葉化したとき、有情／衆生の存在の中核には「苦」があること（「苦諦」）を宣言した。この「苦」とは、およそ存在者一般を、無常なる存在として刹那刹那に生成流転する時間の内に、純然たる苦しみの集合体たる「五蘊」の流れからなる生成物として捉え、老いて死する存在であるとともに、その誕生の始まりに死を観ることに始まる。このような意味での仏教的死生観に立って、その「苦」から解放されるための「法」についての「三十七」の手立てについて、ヨーガーチャラ（瑜伽師）たちの所説を伝える『瑜伽師地論』のチベット訳テキスト（サンスクリット原典が伝わらないテキスト箇所）を精読することを通じて考察する。</p>											
【到達目標】											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず「三十七菩提分法」についての仏教教義の概要を講義し、次いで、講読対象テキストの精読へと進む。</p> <p>1. 「三十七菩提分法」について</p> <p>(1) パーリ・ニカーヤに伝わる「三十七菩提分法」</p> <p>(2) 北伝のアビダルマ諸論書に伝わる「三十七菩提分法」</p> <p>(3) 瑜伽行派の論書（『中辺分別論』）における解釈</p> <p>(4) 『瑜伽師地論』 「声聞地」における解釈 その1</p> <p>(5) 『瑜伽師地論』 「声聞地」における解釈 その2</p> <p>2.(6) 『瑜伽師地論』 「撰異門分」における「三十七菩提分法」の経句伝承について</p> <p>(7) 『瑜伽師地論』 「撰異門分」における「三十七菩提分法」の解釈</p> <p>以下、第8回から第15回は、『瑜伽師地論』 「撰異門分」における「三十七菩提分法」の解釈箇所について、チベット訳を中心としてテキストを精読して行く。</p> <p>ただし、ドクトラント（課程博士候補生）の諸君から、課程博士論文提出に向け、研究遂行中のサンスクリットテキストのワーキングエディションが提示されるときには、後半の第8回から第15回は、個々のドクトラントが研究対象としているテキストを共に精読することとする。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点。</p> <p>各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

テキスト解読に対するサンスクリット読解力の程度をもって評価します。

[教科書]

授業中に指示する
テキストは、適宜、コピー配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系 8 2

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』 「撰異門分」における「三十七菩提分法」の考察（テキスト講読の続き）									
【授業の概要・目的】											
前期授業において行ったテキスト解読箇所と比較吟味を行いつつ、継続的に、テキストを精読することを通じて「三十七菩提分法」教義への思索を深めて行くことを目的とする。なお、学位論文の作成を目指している受講生の希望に応じて、その研究対象テキストを精読することを考える。											
【到達目標】											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
第1回から第15回、前期講読対象テキストの継続的精読。 ただし、受講生諸君の希望により、学位論文作成遂行に当たっての作業中テキストの提示がある場合、当該テキストを精読することとする。											
【履修要件】											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点。 各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。 テキスト解読に対するサンスクリット読解力の程度をもって評価します。											
【教科書】											
授業中に指示する テキストは、適宜、コピー配布します。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism									
【授業の概要・目的】											
<p>This semester we will continue to investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s. We will read a selection of texts from the Lamp of the Eye of Meditation (bSam gtan mig sgron) written by gNubs chen Sangs rgyas ye shes (9th-10th c.) and others by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism - Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field 											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド後期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
一切法の空を主張する中観派には、その極端に見える主張のために初期から批判があったが、インド後期中観派の時期にはどのような問題設定や批判があり、中観派はそれにどう答えたのであろうか。本演習では、11世紀頃に活躍したプラジュニャーカーマティ著『入菩提行論細疏』『般若波羅蜜多章』を取り上げ、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『入菩提行論細疏』『般若波羅蜜多章』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『入菩提行論』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。第15回の授業にはフィードバックを行う。 フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		宮崎 泉 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド後期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
一切法の空を主張する中観派には、その極端に見える主張のために初期から批判があったが、インド後期中観派の時期にはどのような問題設定や批判があり、中観派はそれにどう答えたのであろうか。本演習では、11世紀頃に活躍したプラジュニャーカラマティ著『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」を取り上げ、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『入菩提行論細疏』「般若波羅蜜多章」に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド後期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『入菩提行論』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		駒澤大学 仏教学部 講師 加納 和雄 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梵文仏典写本研究のための基礎知識									
[授業の概要・目的]											
インド本土において衰退した大乘仏教を研究するために現在われわれの手元に残されているのは、インド周辺諸国において翻訳という形で伝承された仏典翻訳文献と、写本として伝来されている梵文原典とである。このうち写本資料は仏典原典の言語をダイレクトに今に伝える貴重な資料であり、近年その研究が飛躍的に進んでいる。授業では梵文仏典写本研究の現状と課題について理解し、写本を実際に読解しながら、文字解読をはじめとする基礎的な能力の養成を目的とする。											
[到達目標]											
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。											
[授業計画と内容]											
冒頭数回の授業では、インドに由来する梵文仏典写本研究の現状について、特に、ネパール・チベット伝来の写本を中心に概観する。さらに写本読解のための基礎知識を養うために、従来刊行されてきた写本の文字表や、梵文写本独特の綴り字法などについて説明する。また、写本の所有者にまつわる逸話を紹介し、来歴と伝承過程について補足する。これらの基礎知識を習得した後は、実際に写本の読解に入る。素材としては、未読の断片写本をサンプルとして用いる。特に、写本の読みに問題がある場合の対処法と有効な手続きについて詳しく論じる。授業は演習形式とするが初心者も歓迎する。											
第一～三回 歴史的背景の概説と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 特定准教授 熊谷 誠慈 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教のこころ観 : 存在論的視点から (インド宗教哲学文献精読)									
【授業の概要・目的】											
<p>仏滅後100年頃に、仏教教団は保守的な上座部と革新的な大衆部とに分裂したとされる。それからさらに18とも20ともいわれる様々な学派が生じるにいたった。上座部系の主要な勢力の1つに説一切有部が存在する。チベット仏教文化圏においては、説一切有部、経量部、瑜伽行唯識学派、中観派をインド仏教の四大学派とみなし、説一切有部の代表的作品をヴァスバンドゥ著 Abhidharmakosa (俱舍論) とみなしている。Abhidharmakosaは、真諦や玄奘により漢訳され、7世紀には日本に伝わり俱舍宗が形成され、近代にいたるまで伝統仏教各派により基礎教学として広く学習された。したがって、Abhidharmakosaは、インドから東北アジア、東アジアに広く影響を与えた著作であるといえよう。</p> <p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。同章では、人間存在の構成要素である五蘊、さらには認識の構成要素である十二処、十八界といった、仏教の基礎的な理論が説明される。同章を精読することで、とりわけ仏教の伝統的な「こころ観」について概観し理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>初回はAbhidharmakosaのイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。適宜、仏教の宗義書も精読し比較考察する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p> <p>テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読していただくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		こころの未来研究センター 特定准教授 熊谷 誠慈 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教のこころ観 : 存在論的視点から (インド宗教哲学文献精読)									
【授業の概要・目的】											
<p>仏滅後100年頃に、仏教教団は保守的な上座部と革新的な大衆部とに分裂したとされる。それからさらに18とも20ともいわれる様々な学派が生じるにいたった。上座部系の主要な勢力の1つに説一切有部が存在する。チベット仏教文化圏においては、説一切有部、経量部、瑜伽行唯識学派、中観派をインド仏教の四大学派とみなし、説一切有部の代表的作品をヴァスバンドゥ著 Abhidharmakosa (俱舍論) とみなしている。Abhidharmakosaは、真諦や玄奘により漢訳され、7世紀には日本に伝わり俱舍宗が形成され、近代にいたるまで伝統仏教各派により基礎教学として広く学習された。したがって、Abhidharmakosaは、インドから東北アジア、東アジアに広く影響を与えた著作であるといえよう。</p> <p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。同章では、人間存在の構成要素である五蘊、さらには認識の構成要素である十二処、十八界といった、仏教の基礎的な理論が説明される。同章を精読することで、とりわけ仏教の伝統的な「こころ観」について概観し理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
【到達目標】											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
初回～第15回で、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。適宜、仏教の宗義書も精読し比較考察する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
【教科書】											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読していただくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		宗教情報センター 京都支社 研究員 文学研究科		佐藤 直実 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		大乘仏教経典の読解									
【授業の概要・目的】											
<p>最初期の大乗仏教の代表的な経典『阿しゆく仏国経』の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する仏で、西方・極楽世界を主宰する阿弥陀仏と対比されることが多く、最も古い現在仏の一人である。後に四方四仏の東方仏として定着し、密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられる。後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊に据えられる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国経』は、この阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く経典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>この講義では、全6章ある『阿しゆく仏国経』の中から、阿しゆく仏の成道前を描く第1章をとりあげ、阿しゆく仏の誓願や成道時の様子を解読・解説する。漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進める。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・チベット語翻訳文献の読解力の養成 ・大乘仏教の基礎知識の習得 ・仏教文献学の研究手法の習得 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 テキストの概説と資料配付 第2-14回 『阿しゆく仏国経』の講読 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
サンスクリット、古典チベット語、仏教漢文の基本的な読解能力を必要とする。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。 テストは行わない。											
【教科書】											
授業中に指示する 授業中に資料を配付する。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 文化学部 准教授 志賀 浄邦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		カマラシーラ作『ニヤーヤ・ビンドゥ前主張要約』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧カマラシーラによる著作『ニヤーヤ・ビンドゥ前主張要約』を講読する。この著作にはチベット語訳のみが存在し、サンスクリット原典は散逸し現存しない。内容はタイトルが示す通り、仏教論理学者ダルマキールティ（7世紀）の著作の一つである論理学書『ニヤーヤ・ビンドゥ（論理の滴）』に対する種々の前主張（反論者の見解）が要約された形で述べられたものである。</p> <p>本授業は、上記のテキストを精読することを通して、『ニヤーヤ・ビンドゥ』で述べられるダルマキールティの思想や理論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。カマラシーラによる『タットヴァ・サンガラハ・パンジカー（真実綱要注）』をはじめとする他の著作や、ヴィニータデーヴァやダルモッタラによる『ニヤーヤ・ビンドゥ』に対する注釈書の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。 ・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。 ・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。 ・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット語テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。 ・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では『ニヤーヤ・ビンドゥ前主張要約』第3章（他者のための推理）を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～5回 仏教認識論・論理学についての概説、『ニヤーヤ・ビンドゥ』第3章の講読</p> <p>第6～14回 『ニヤーヤ・ビンドゥ前主張要約』第3章の講読と解説（受講生による輪読形式）</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

[教科書]

授業中に指示する
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

- ・ 講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・ テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・ その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
[授業の概要・目的]											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>本講座では、Jaatakathavannanaa (ジャータカ(本生譚)注釈)より、シャーリープトラ、デーヴァダッタにまつわる物語や、『今昔物語集』に類話をもつ話など4つの短編を、Petavatthu-atthakathaa (餓鬼事注釈)より、「母の救済」という点で『盂蘭盆経』との共通要素を見いだすことのできるSaariputtatheramaatupetivatthuvannanaaを精読する。</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
[到達目標]											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーリ語について(言語的特徴などについて概説) ・精読に必要な辞書や文法書などの紹介 ・講読テキストのプリント配布 ・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど) <p>第2回-3回：テキスト講読 (Visavantajaataka)</p> <p>第4回-6回：テキスト講読 (Serivaanijajaataka)</p> <p>第7回-9回：テキスト講読 (Matakabhatajaataka)</p> <p>第10回-12回：テキスト講読 (Kacchapajaataka)</p> <p>第13回-15回：テキスト講読 (Saariputtatheramaatupetivatthuvannanaa)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業でテキストを精読し、その内容について討論する。 ・輪読形式での講読とする。 ・テキスト内容や受講者の習熟度によって進度は一定ではないことが予想されるが、目安として、1回の授業につきテキスト2ページ程度を読み進める予定である。 											
[履修要件]											
初級程度のサンスクリット語読解力があること。											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

輪読形式のため、平常点評価とする。

[教科書]

プリント配布

[参考書等]

(参考書)

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』 (The Pali Text Society) ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』 (山喜房佛書林) ISBN:4-7963-0010-4

[授業外学習(予習・復習)等]

テキスト講読は輪読形式で行うため、予習をして臨むことが望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
[授業の概要・目的]											
現在もインド国内を中心に教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点も多い。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、プラークリットの一種でありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを読み進めながら、プラークリットになれる。											
[到達目標]											
アルダマーガディーで書かれたテキストを読むことにより、サンスクリットとは異なる音韻変化や文法をもつ、プラークリットの特徴を理解する。あわせて、Amgを伝持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。											
[授業計画と内容]											
1回目：アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、Amgを伝持してきたジャイナ教の説明。											
2～5回目：文法書に即して、音韻変化、名詞変化、動詞の活用を確認する。											
6～15回目：ジャイナ教団においても初学者が学ぶテキストである『Dasaveyaliya』の第6章「法の目的の叙述」を読む。この章は、ジャイナ教の教義や、出家者の行動規則などに幅広く言及し、適宜、他の関連文献とも対照しながら読み進める。 テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリット、プラークリットの知識を考慮して進める予定である。											
[履修要件]											
初級サンスクリットを履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点：授業内での発言（和訳等含む）											
[教科書]											
コピーを配布する 渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010. F. van den Bossche. Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業外学習はとくにない。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系 9 3

科目ナンバリング		U-LET14 31851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読 I) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定外国語担当講師 KLEBANOV, Andrey 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		Reading German Indology and Buddhology									
[授業の概要・目的]											
<p>We will read representative examples of important styles of German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, so as to develop students' abilities to read and understand academic German on their own.</p> <p>The aims of the course are (1) to introduce students into major works of German Indology and Buddhology, (2) to familiarize them with main stylistic features of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit, as well as (3) ultimately to develop students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
[到達目標]											
Students will develop their abilities to read and understand German academic writings on their own.											
[授業計画と内容]											
The choice of texts depends on student interest and specialization. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs (15 weeks).											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Active participation in the classroom, preparation of translations from German at home.											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
Preparation of German textual passages to be translated and discussed. Approximately one to two hours per week.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31853 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読II) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・仏教学フランス語文献の講読									
[授業の概要・目的]											
インド古典学・仏教学に関連するフランス語の文献を講読し、フランス語の研究文献の読解力をつけるとともに、サンスクリット学、インド哲学、仏教学についての基礎的な知識を身につけることを目的とする。											
[到達目標]											
印度古典学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
[授業計画と内容]											
インド初期仏教とパタンジャリのヨーガについて、Louis de la Vallee Poussin氏によって書かれた「Le Bouddhisme et le yoga de PataJali」(Melanges chinois et bouddhiques, 5e volume, 1936-1937)を講読する。											
第1回 イントロダクション 第2 - 15回 テキストの講読											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による(参加度と発表から総合的に判断する)。											
[教科書]											
使用しない 講読テキストはコピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 参照すべき文献などに関しては、授業中に指示する。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
出席者は、講読する箇所の予習が必要である。毎回、数名が当該箇所のフランス語を和訳あるいは英訳し、発表する。											
(その他(オフィスアワー等))											
deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31853 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読II) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・チベット学・仏教学フランス語文献の講読									
【授業の概要・目的】											
Rolf A. Stein(1911-1999)によって書かれた『La civilisation tibétaine』の様々な個所を講読する。本傑作は、地理的、歴史的、社会的、文化的、宗教的、哲学的なあらゆる観点からのアプローチによりチベットの文明を紹介しており、チベット語また中国語の原典、チベット渡航者による見聞録、そして現代研究に基づいて書かれている。授業では、特にチベットを偉大なインドと中国文明の交点と考えることでチベットにおける仏教の伝承を中心に考察する。											
【到達目標】											
印度古典学・チベット学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 第2－15回 テキストの講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による（参加度と発表から総合的に判断する）。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） Rolf A. Stein 『La civilisation tibétaine』（Paris: L'Asiatheque, 1996 (1987)） コピーを配布する。											
【授業外学習（予習・復習）等】											
毎授業の前、講読する箇所の予習が必要である。毎回、学生一人がフランス語を和訳し、発表する。											
（その他（オフィスアワー等））											
DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											